

# リアホナ



## 夫婦宣教師として 奉仕する, 18ページ

帰還宣教師たちの行動を促す  
3つの招き, 42ページ

真理は勝つ, 48ページ

エマ・スミスの少女時代, 58ページ



教会歴史美術館の厚紙により掲載

「主はわたしの魂をいきかえらせ」  
ウォルター・レーン画

この絵の画家はこう述べています。「これはダビデ王が聖歌を書いている姿を描いたものです。ダビデはイスラエルで最も影響力のあった王の一人でした。それでも個人としての彼の生涯は多くの悲劇に見舞われました。……それでも、そのような悲劇の中から、主に癒しと救いを哀願したダビデは、多くの聖歌を生み出しました。」

この絵の題名は詩篇第23篇1-3節のダビデの次の言葉から取られています。

「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。

主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。

主はわたしの魂をいきかえらせ〔る。〕」





リアホナ 2010年9月号

メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
個人の導き手としてのモルモン書  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
次の世代を養い育てる責任

特集

- 10 福音の儀式に希望を見いだす  
エライアス・マガボ  
神殿の儀式がわたしたちの心を癒し、家族を一つにしてくれました。
- 18 熟年の宣教師たち  
ケント・D・ワトソン長老  
台湾で奉仕している夫婦宣教師の言葉は、伝道について考えている人たちにとって大いに参考になるでしょう。

- 22 宣教師ガイドの枠を超えて  
メリッサ・メルル  
『わたしの福音を宣べ伝えなさい』はすべての教会員のための靈感された道具です。
- 28 主を見いだすトンガの人々  
ジョシュア・J・パーキー  
トンガの末日聖徒は主を第一にすることから得られる祝福を知っています。
- 34 扶助協会集会を活用して、  
教え、霊的に鼓舞する  
ジュリー・B・ベック  
靈感を受けた指導者は、扶助協会集会をワードや支部の必要に合わせるすることができます。

シリーズ

- 8 小さな、簡単なこと
- 13 教会での奉仕——  
子供たちに奉仕の機会を与える  
ジェニー・ベーカー

- 14 キリストについて語る——  
キリストを家庭に招く  
シンシア・グリーン
- 16 わたしたちが信じていること——  
福音は全世界に宣べ伝えられる
- 38 末日聖徒の声
- 74 教会のニュース
- 79 家庭の夕べのためのアイデア
- 80 また会う日まで——  
水槽から得た教訓  
ミネルバ・G・ハークネス

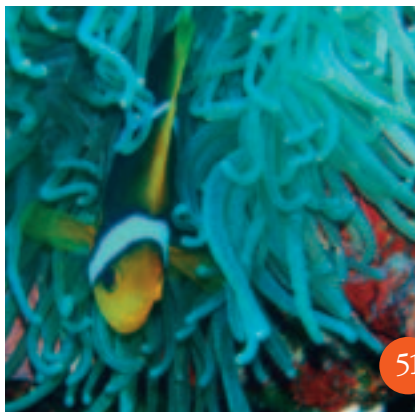
表紙  
表紙——  
フォトイラストレーション/李賢規  
裏表紙——  
フォトイラストレーション/李賢規,  
ラウレニ・アダマール・フォチェット,  
ルース・シプス



42

42 わたしたちに対する  
指導者の言葉——  
帰還宣教師の皆さんへ  
L・トム・ペリー長老

45 生活の中の福音——  
わたしたちが喜びを得るために  
アンドレア・ジョーンズ



51

46 そこが知りたい  
48 わたしはこのようにして知りました  
——真理は勝つ  
オリバー・メイオール

51 わたしたちのスペース  
52 伝道地より——信号での奇跡  
ベンジャミン・ヘイフォード

54 よく備えてコートに入る  
アダム・C・オルソン  
コキにとって、バスケットボールを  
することは福音に従って生きるこ  
ととよく似ています。

57 ポスター——  
しっかりつかまっていなさい

54



58

58 信仰深い少女, エマ  
マーク・ステーカー  
エマ・スミスは小さいころ、どの  
ような少女だったのでしょうか。

60 福音はみんなのためのもの  
ディーター・F・ウークトドルフ 管長  
どこに住んでいるか、何語を話す  
かにかかわらず、福音はあなたの  
ものです。

62 分かち合いの時間——  
わたしは イエス・キリストを  
あいしているのに、  
しゅに したがいます  
サンドラ・タナー、  
クリスティーナ・フランコ

64 わたしたちのページ  
65 特別な証人——  
神権定員会について  
知っていますか  
D・トッド・クリストファーソン 長老

66 エホバ、ちゅうじつな  
ダニエルを おすくいになる  
ダイアン・L・マンガン  
ダニエルは しゅに したがうことを  
えらんだので、まもられました。

68 もっとも 素晴らしい  
おくりもの  
ジェーン・マクブライド・チョート

70 ちいさな おともだちへ



こんげつごう なか  
今月号の中に  
かく  
隠れている  
リアホナを  
さが  
搜しましょう。  
ヒント——おくりもの





大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリ, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホルランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ボール・B・パイパー

顧問: スタンレー・G・エリス, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, 菊地良彦

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

編集主任: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主宰: R・パル・ジョンソン

編集主宰補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: ライアン・カー

編集補佐: スーザン・パレット

編集スタッフ: デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ポーター・ガート, アニー・ジョーンズ, キャリー・カステン, ジェニファー・マティ, ミリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジェン・ピンボロー, リチャード・M・ロムニー, ドン・L・サル, ジャネット・トーマス, ボール・ハンデンバーグ, ジュリー・ワーデル

主任秘書: ローレル・トイスチャー

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・パン・カンペン

制作主宰: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ: カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オーヌ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・パーデット, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスターマカー, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンソン, デニス・カービー, スコット・M・ムーイ, キニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレーグ・K・セドウィック

配送ディレクター: ランディ・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,000円(送料共)

普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,

Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

電子メール: [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)

「リアホナ」は、[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) に様々な言語で掲載されています。

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ヒンディー語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, シンハラ語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タミル語, テルグ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2010 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — [cor-intellectualproperty@ldschurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@ldschurch.org) にご連絡ください。

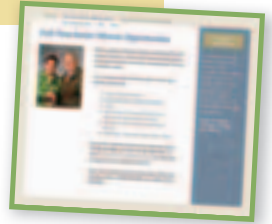
**For Readers in the United States and Canada:** September 2010 Vol. 34 No. 9. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431) POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

# インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org [英語]

## 成人

「熟年の宣教師たち」(18 ページ)の中で、ケント・D・ワトソン長老は、「教会を確立し強める動きの中で素晴らしい奇跡を起こしている」夫婦宣教師について紹介しています。熟年の宣教師たちの奉仕の機会について調べるには、[www.lds.org/csm/index.html](http://www.lds.org/csm/index.html) [英語] にアクセスしてください。



「主を見いだすトンガの人々」(28 ページ)に興味のある方は、[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) で、トンガの末日聖徒の写真をさらに見ることができます。

## 青少年



今月号では、宣教師の手引き「わたしの福音を宣べ伝えなさい」について触れている記事が幾つかあります。この手引きは [www.preachmygospel.lds.org](http://www.preachmygospel.lds.org) から、多くの言語で入手できます。

## 子ども

[www.liahona.lds.org](http://www.liahona.lds.org) [英語] で、子供の活動を見つけてください。



## あなたの言語で

[www.languages.lds.org](http://www.languages.lds.org) で、「リアホナ」やその他の教会の資料を多くの言語で入手できます。



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・  
アイリング管長

# 個人の導き手としての モルモン書

**霊**的に良い状態にあるとき、人はだれでも、天の家に戻って神とともに住みたいという望みを抱きます。神は御自分の愛する御子を救い主としてわたしたちのために送り、天の家に戻る道を備え、その道をどのようにして歩めばよいかを教えてくださいました。また、その道を示してくれる預言者を与えてくださいました。預言者ジョセフ・スミスは靈感により、預言者の記録であるモルモン書を翻訳しました。モルモン書は、神のもとに帰る道を歩むうえでの確かな導き手です。

ジョセフ・スミスはこの貴い書物について次のように述べています。「わたしは兄弟たちに言った、『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることに、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」<sup>1</sup>

モルモン書の教えとは、この書物に記されている神の戒めです。その中には、何を行い、どのような人物になるべきかについて、救い主が預言者を通じてはっきりと命じておられるものもあります。また、モルモン書には救い主の模範が記されており、それらの模範によってわたしたちの信仰は増し、主に従うために主の戒めを守ろうという決意が強まります。この書物は、わたしたちを導いてくれるキリストの教義に満ちています。その一例をニーファイ第二書から見てみましょう。

「〔イエス〕は、『わたしに従いなさい』と人の子らに言われた。それゆえ、愛する同胞よ、進んで御父の戒めに従わないで、わたしたちはイエスに従うことができるだろうか。

御父は言われた。『悔い改めよ。悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ。』(2 ニーファイ 31:10 - 11)

モルモン書は、細くて狭い道にとどまるために、聖霊を受けることによって火によるバプテスマを受けなければならないことを明らかにしています。また、気を落とさずに常にキリストの御名によって祈らなければならず、そうすれば次の約束を受けると教えています。「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2 ニーファイ 31:20)

モルモン書は、ベニヤミン王のすばらしい説教の中で、神とすべての人を愛するとはどういうことかを明らかにしています。戒めに忠実に従うことを通して、贖罪の力によってわたしたちの性質が変わるとき、わたしたちは神の愛で満たされるのです(モーサヤ4:1 - 12 参照)。

モルモン書はまた、悪を行う望みをもう二度と持つことのないほど、現世において清くなることができるという確信を与え





「パウロの地獄へのキリスト」サイモン・デュニエール © 2003 IRI

わたしは  
たとえ数行であろうと  
モルモン書を読む度に、  
この書物が真実であり、  
イエスがキリストで  
あられるという証が  
あかし  
強まるのを感じます。

てくれます（モーサヤ5：2参照）。この希望は、途中でサタンがわたしたちを誘惑し、落胆させようとするときに、勇気と慰めを与えてくれます。

わたしはたとえ数行であろうとモルモン書を読む度に、この書物が真実であり、イエスがキリストであられ、主に従うならば神のもとに帰ることができ、愛する人々も連れて帰ることができるという証が<sup>あかし</sup>強まるのを感じます。モルモン書はわたしにとってどの書物にも勝って価値ある書物です。モルモン書はまさに神の言葉です。

わたしたちが、そしてわたしたちの愛するすべての人が、この書物を毎日深く味わうように祈ります。モルモン書が真の導き手であることを、イエス・キリストの御名によって証します。■

### このメッセージから教える

「**聖**典と末日の預言者の言葉を用いてすべてのレッスンを教えるとき、<sup>みたま</sup>御霊に証をしていただくことができる。そして、『人々を確信に導く神の力』を受けて教えることができる（教義と聖約11：21）。」（『教師、その大いなる召し』51）モルモン書についてのジョセフ・スミスの言葉を含め、アイリング管長のメッセージの特に印象的な箇所を読むとよいでしょう。モルモン書に書かれている教えを実践することでどのように神に近づくことができるか、家族の人たちに話してもらってください。

「生徒は聖文に書かれた原則について話し合うにつれて、個人の聖文学習に必要な技能を伸ばしていくことができる。」（『教師、その大いなる召し』54）このメッセージで引用されている聖句を読み、教えられている原則を見つけ、話し合うとよいでしょう。

### 注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』64

青少年

わたし自身のモルモン書

ヒラリー・ホルブルック

2005年8月、ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）が、年内にモルモン書を読み終えるよう教会員に勧めました。そこで、わたしはモルモン書を完読しようと決意しました。モルモン書に出てくる物語はよく知っていましたが、最初から通して読んだことは一度もありませんでした。ですから、ぜひこの決意を果たそうと思いました。

以前から、聖句を自分の生活に当てはめて、自分のものとするように教わっていました。そこで読みながら、その箇所要点だと思ふことをページの余白に書き留めました。また、繰り返されている語句には、目立つように線を引きました。

また、神がほかの人に語られた言葉は自分に語られた言葉で

もあることを思い起こせるように、文中の人物名の横に自分の名前を書き込みました。例えば、ニーファイ第二書第2章28節には、次のように自分の名前を書き込みました。「ところで、〔ヒラリー〕よ、わたしはあなた……が偉大な仲保者に頼り、主の大いなる戒めに聞き従〔って〕ほしいと思っている。」モルモン書を自分のために書かれた書物として学んでいくにつれ、日々読むのが楽しくなっていました。

毎日読んでいくうちに、個人的な事柄について真心から祈るようになりました。また、授業に集中し、人を助けるようにという御霊のささやきに従えるようになりました。その年の大みそかの晩、わたしはモルモン書を読み終わりました。

そしてモルモン書やそのほかの聖典を読み通すことの大切さが分かりました。これからも何度も繰り返し読みたいと思います。



子ども

天の家に 帰るための みちびき手

ま い子になって、家に帰る道が分からなくなってしまったとしたら、どんな気持ちになるでしょうか。道を教えてくれる人がいて、その人について行くことができればいいと思いませんか。アイリングかんちょうは、モルモン書はわたしたちが天のお父さまの

もとに帰れるように たすけてくれる みちびき手のようだと 言っています。

下の絵は、天の家に 帰るために しなければならないとモルモン書で 教えられていることを あらわしています。ニーファイだい二書だい31しょう10, 11, 20せつを 読んでください。それぞれの 絵の下に、それに合うせつを 書きましょう。にど つかう せつも 一つあります。



くいあらためて  
バプテスマを うける。



かがやく きぼうを  
もつ。



かみと すべての人  
を あいする。



イエスさまに したがう。

左—フोटイラストレーション/クレク・タイムズ。絵—ステイシー・クロツプ





信仰・家族・救助

## 次の世代を 養い育てる責任

この資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

**わ** たしたちの次の世代は、養いを受けないかぎり、モーサヤ第26章で述べられている若者たちのようになってしまう恐れがあります。当時、多くの若者が自分たちの先祖の言い伝えを信じず、信仰に関してはまったく違った民になって、いつまでもそのままの状態にとどまっていた。わたしたちの次の世代も、天の御父の計画における自分たちの役割を理解しなければ、同じように惑わされてしまうかもしれません。

では、次の世代を守ってくれるものとは何でしょうか。教会で、わたしたちは救いの原則を教えますが、それはすなわち家族に関する原則であり、この原則こそ、次の世代が家族を築き、家族を教え、儀式と聖約に備えられるように助けてくれるものなのです。そしてさらに後の世代へと、教えは受け継がれていくでしょう。

親として、指導者として、そして教会員として、わたしたちはこの世代をアブラハムの祝福に向けて、神殿に向けて備えさせています。わたしたちには、家族に関する宣言で述べられている教義の要点をはっきりと教える責任があります。母親や父親としての務めは、永遠の役割であり責任です。わたしたちはそれぞれが天の御父の計画における男性または女性の役割を果たす責任を負っています。

この教義はどのような場面でも教えることができます。結婚と家族について、わたしたちは敬意をもって語らなければなりません。そしてわたしたちの模範から、すなわちわたしたちが語る言葉だけでなく、わたしたちが家族を大切に思い、家族に関する正しい原則を実践する姿から、次の世代の若者たちは大きな希望と理解を得ることができるのです。

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック

### 聖文から——

箴言 22 : 6 ; エペソ 6 : 4 ; エノス 1 : 1 ; アルマ 53 : 20 - 21 ; 56 : 47 ; 57 : 27

### 何ができる でしょうか？

**1.** 担当の姉妹たちが「家族——世界への宣言」を使って次の世代を養い育てるのを、どのように助けることができるでしょうか。宣言と一緒に読み、姉妹たちが重要な教義が最もよく教えられていると思う箇所を見つけて印を付けられるようにするとよいでしょう。

**2.** どのようにして次の世代を養い育てることができるでしょうか。自分のワードや支部、家族、地域の人々で、あなたの関心と愛が助けになると思われる人に手を差し伸べるとよいでしょう。

### わたしたちの歴史から

1995年9月23日、中央扶助協会集会において姉妹たちに向けて語った説教の中で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べました。「現代は混乱の時代、価値観の揺らぐ時代です。甲高い声が、時に裏打ちされた行動の規範に反旗を翻し、これだ、あれだと叫びます。」<sup>1</sup>その後、ヒンクレー大管長は姉妹たちに、全教会員に、そして全地の人々に向けて、「家族——世界への宣言」を発表しました。

その後、この預言者による宣言は数多くの言語に翻訳され、世界の指導者たちに配布されました。宣言は、「社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進め〔るよう〕」市民と政府の指導者に呼びかけています。<sup>2</sup>

この宣言は、家族についての末日聖徒の信条の土台となっています。わたしたちがよりどころとすることのできる声明であり、その教えを実践することによって、わたしたちは家族と家庭を強めているのです。

#### 注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号、110
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49参照

詳しくは [www.reliefsociety.lds.org](http://www.reliefsociety.lds.org) [英語] をご覧ください。



# 小さな、簡単なこと

「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」  
(アルマ 37:6)



## 総大会の隠れた靈感

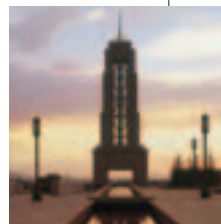
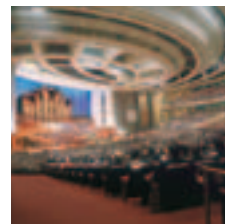
**総**大会の話者はテーマを割り当てられているのだろうかと思ったことはありませんか。前回の大会で十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は、こう説明しました。「総大会ではテーマを割り当てられることも、話者同士が協同することはありません。しかし主の方法はもちろん常に最善の方法です。主は一人一人の話者が祈りと努力によって準備する話を、啓示と力に満ちた『霊的な交響曲』に作り上げてくださいます。同じテーマ、原則、預言者からの警告、心を高める約束が繰り返し述べられる様子は、天のハーモニーとも呼べる奇跡です。」(「イエス様の話聞かせて」『リアホナ』2010年5月号, 108)

## 世界における教会歴史

### 竣工10周年を迎えるソルトレーク・シティの カンファレンスセンター

**カ**ンファレンスセンターは2000年10月8日、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910-2008年)により奉献されました。あなたは次の事実を知っていますか。

- 最初の使用 — 第170回年次総大会, 2000年4月1日, 2日
- 奉献以降, 様々な催しに出席した人の総数 — 4,577の催しに対して690万人
- 建物を見学した訪問者の総数 — 480万人
- 建物を見学した著名人の総数 — 5,500人
- ミュージック・アンド・スポークンワードを含む音楽の演奏回数 — 311回
- クリスマス関連の発表 — 17の催しで49の発表
- 展示された芸術品 — 預言者の殿堂, アーノルド・フリーバーグ美術展, 教会の国際美術コンテストからの作品



## カレンダー

**重要** — 中央扶助協会集会は9月25日, 総大会は10月2日と3日に開催されます。放送の時間と場所については神権指導者に, または conference.lds.org で確認してください。多くの場合, インターネットを通じて総大会の様子を視聴することができます。





## カンファレンスセンターの説教壇

カンファレンスセンターの説教壇には逸話があります。以下はゴードン・B・ヒンクレー大管長による説明です。

「わたしは木が好きです。少年時代に、わたしたちの家族は、夏の間だけ、農場に住んでいました。果樹園です。毎年この時期になると、木を植えました。結婚して以来、留守にしている植えられなかった2、3年を除けば、木を植えなかった年はないと思います。……

36年ほど前、わたしは黒くるみの木を植えました。木の密集した

場所であったため、それは日光に当たろうとしてまっすぐ高く生長しました。しかし1年ほど前、何かの理由でその木は枯れてしまいました。けれども、くるみの木は貴重な家具用木材となります。わたしは、専任の召しを受けて教会で働くようになるまでは材木業を営んでいた七十人のベン・バンクス兄弟に電話しました。彼は、今は材木業者をしている二人の息子さん——一人はビショップで、もう一人は解任されたばかりの元ビショップです——を連れてその枯れた木を見るためにやって来ました。彼らは異口同音に、堅く良質で、美しい木だと言いました。彼らのうちの一人が、このホールの説教壇に使ったらどうか、と提案してくれました。この提案には胸が躍りました。こうして黒くるみの木は切り倒され、2本の

がっしりした丸太になりました。そして長い乾燥期間に入りました。最初は自然乾燥、次に人工乾燥という



手順を踏みました。そしてこれらの丸太はユタ州セーレムの製材所で加工されて板になりました。続いてその板がフェツァー木工所に運ばれました。そこで熟練した職人が設計し、この美しい説教壇を作ってくださいました。

この説教壇はとても美しく仕上がっています。皆さん全員に間近で見ただけならと思うほどです。職人の優れた技量がよく表れています。そして今、我が家の裏庭でわたしが育てた木で作られた説教壇から、皆さんに語りかけているのです。その裏庭で、わたしの子供

たちも遊び回り、育ちました。

これはわたしにとって感慨深いことです。わたしはこのほかに黒くるみの木を1本か2本植えました。それらの木が生長するにはわたしがこの世を去ってからかなりの歳月が必要でしょう。時がたつてこの美しい説教壇が古くなったとき、恐らくそのうちの1本が、新しい説教壇を作るのに用いられるかもしれません。バンクス長老とそのご子息のベンとブラッドリーに、そしてこれを設計し製作してくださいました優秀な方々に心から感謝を申し上げます。彼らのおかげで、この壮大なホールに、わたしもほんの少し貢献することができました。このホールから全世界に向けて、人類のあがな贖い主を証する預言者たちの声が発せられることでしょう。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長 (1910 - 2008年) 『全世界に証する声』 『リアホナ』 2000年7月号、6から



## 夕食のひとときを 学習の時間にする

夕食のひとときを学習の時間にしましょう。教会の教科課程の資料を何冊か食卓の近くに置いておくだけでよいのです。我が家では子供たちに教えるための資料を活用しています。『神への信仰 少女用』『成長するわたし』『若人の強さのために』などを参照します。もちろん、聖典も手もとに置いています。

時には、これらの資料から一部を読んで、話し合います。参照聖句を調べることもあります。信仰箇条第5条を暗記して、食事をしながらその意味について話し合ったこともあります。

食卓の準備をするときに、時々これらの資料を傍らに置いておくことによって、霊と体に栄養を与えることの大切さを思い出すことができます。

セレナ・ゲドレマン (カナダ、アルバータ州)

注——『神への信仰 少年用』と『神への務めを果たす』も入手することができます。末日聖徒配送センターを通じて、または [www.ldscatalog.com](http://www.ldscatalog.com) [英語] で注文してください。合衆国およびカナダの居住者は電話 (1-800-537-5971) でソルトレーク配送センターに注文することもできます。



左——アンダーカーク・ヒンクレー大管長 (1910 - 2008年) 『神への信仰』 © 2000年

# 福音の儀式に希望を見いだす

妻は電話で、「具合は良くなっているからもう大丈夫」と断言しました。  
ところが、3日後に事態は急変しました。

エライアス・マガボ

**わ**たしはフィリピンで生まれ育ち、妻のモニナに出会って結婚しました。そして息子のマークが生まれたのもフィリピンでした。1990年代半ばに家族で太平洋に浮かぶ小島サイパンに引っ越しました。ここでは、わたしたちはほかの教会に熱心に通っていました。時々、ワイシャツとネクタイというこざっぱりした姿で島内を歩いている二人一組の青年を見かけることはありました。彼らが末日聖徒の宣教師であることは知っていましたが、ほかの教会へ移る気はありませんでした。彼らがやって来るのを見ると、わたしは文字どおりきびすを返して、逆の方向へ歩いて行くようにしていました。

しかし、二人の友人、メル・エスピノサとソレグード・エスピノサがバプテスマを受けて教会に入ったことをきっかけに、宣教師に対する姿勢が変わりました。宣教師に会ってみよう勧められたわたしたち家族は、ほとんど好奇心からその誘いを受け入れることにしました。最初の集会は2007年8月でした。宣教師からメッセージを聞いている間、何か強い力を感じました。動悸が激しくなり、全身がぞくぞくするのを感じました。後で分かったことですが、家族全員が靈感と心の高まりを感じていました。その後イエスキリストの福音を深く知るにつれて、その気持ちはますます強くなっていきました。

宣教師と会うようになった時期を境にして、モニナは体力が衰え始め、全身に奇妙なこぶが出てくるようになりました。関節炎が以前よりもひどくなっていました。医師に診てもらいましたが、検査を何度してもはっきりしたことが分かりま

せんでした。それから数か月後には、高度の治療を受けなければならないほど症状が悪化しました。12月には、妻モニナは医師の診察を受けるためフィリピンへ向かいました。わたしは仕事があり、また、10代の息子の面倒を見なければならぬため、サイパンに残りました。

モニナは出発する前に、サイパンに戻ったらバプテスマを受けたいと言っていました。自分はレッスンを何回か受けられないけれども、宣教師と続けて会うようにとも言っていました。わたしはマークと一緒に続けると約束しました。

妻がフィリピンにいる間、わたしたちは定期的に電話で、病状について、また福音について学んだことを互いに報告し合っていました。痛みが日ごとに治まっていると聞いて、治療の効果が出ていることをわたしは喜んでいました。2008年1月の初旬に、妻のもとを訪れるため飛行機の切符を買いました。けれども妻は、間もなくサイパンに戻れるので、旅行でお金を無駄にすることはないと仰いました。息子とわたしを愛しており、早く会いたいと言い、そして必ずうまくいくと言っていました。

3日後に妻は急死しました。白血病が原因でしたが、それを見つけられなかったのです。マークとわたしは大きな衝撃を受け、悲しみに打ちひしがれました。急きょフィリピンへ行って葬儀を済ませ、そしてサイパンに戻って来ました。それはわたしたちが生涯で経験した最大の苦境でした。



わたしは毎朝ベッドから起き上がれないほど深い悲しみに沈んでいました。悲しみを特に強く感じていたある日、マークはこう言って、宣教師から教わったことを思い出させてくれました。「お父さん、そんなに悲しまないで。お母さんは神様のところにいるんだから。霊界にいるんだよ。」公平な神が、モニナが引き続き福音を勉強する手段を用意してくださったこと、この世に来るすべての人はこの世か次の世でイエス・キリストの福音を受け入れるか拒むかの機会を与えられることに、わたしはどれほど感謝したことでしょうか。


イエス・キリストの教えを勉強していくうちに、天の御父が用意してくださったのはそれだけでないことを知りました。モニナがバプテスマなどの欠かせない儀式を受けられるようにしてくださったのです。妻がフィリピンへ旅立つ前に、わたしたちはバプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会に入ることを話し合っていました。妻はこの世でバプテスマを受けることができませんでしたが、天の御父はわたしたちに希望を残しておられました。

マークとわたしはその後も幾つかの試練に出遭いました。妻の葬儀を終えてフィリピンから戻ると、仕事なくなっていました。車を売ってモニナの治療費の支払いに充てました。そのうえ、わたしたちはモニナのいない生活に慣れなければなりません。このような逆境に置かれてはいましたが、わたしたちは新たな信仰に希望を見いだして、2008年4月にバプテスマを受けました。その後数か月の間に、新しい仕事が見つかって、入院費を支払うことができました。わたしはマークとともに支部のフィリピン・マニラ神殿訪問に参加して、家族の結び固めを受けるという目標を立てました。

副収入をすべて貯金し、霊的に準備してから、マークとわたしは2009年5月に支部の神殿訪問に参加しました。旅行に向けて準備して

家族は宣教師のレッスンによって  
靈感と心の高まりを感じていました。  
数か月後に、その慰めが  
どれほど必要になるかなど、  
知る由もありませんでした。





いる間、わたしたちは敵の破壊する力と同時に、天の御父の愛にあふれる力づけと励ましを直接感じることができました。わたし自身は出発の前日にひどく体調を崩しました。予想もしなかった出国審査の問題が起きたり、パスポートを入

手できなかつたりした会員たちが何人かいました。わたしたちに福音を紹介してくれた友人のエスピノサ家族は神殿に出発する週に失業しました。さらに悪いことに、初めて神殿に参入する支部会長会の一人は出発の3日前に父親を突然の病で失いました。けれども、最終的に主はわたしたち一人一人を力づけてくださり、支部から42人の会員が神殿に参入することができました。そのうち16人は初めての参入でした。

2009年5月13日は忘れられない日となりました。妻の死によって受けていた重苦しい気持ちと苦痛が神殿に着いた途端に消え去りました。神殿ではどこで何をしたらよいか分からなかったため、最初は神経質になっていましたが、神殿に入った瞬間に静けさと平安を強く感じました。

神殿の中は扉の外の騒々しい往来とは別世界でした。

時間を追うごとに、神殿の経験に意味と力が増し加えられていきました。午前中に、わたしたちの支部は死者のためのバプテスマに参加しました。その様子を見ていたとき、気がつくと、妻のことを考えていました。妻は1年半前にバプテスマを受けたいと言っていました。やがて彼女の願いがかなえられるのを目にする瞬間が

神殿でわたしは息子とともに、永久に失ったと思っていたものを取り戻しました。

訪れました。友人がモニナのために、モニナの身代わりとしてバプテスマを受けたのです。

けれども、旅の間で最も意味のある出来事は、その日の午後、結び固めの部屋に入ったときに起きました。妻とわたしは何年も前に結婚していましたが、天の御父の神権の権能による神殿結婚は行っていませんでした。わたしは妻が亡くなったとき、彼女を永遠に失ったと思っていました。けれども宣教師に出会ってから、神殿で、家族は永遠に結び固められることを教わりました。

マニラ神殿の結び固めの部屋に入ったとき、わたしは高まる感情を抑えられなくなりました。バプテスマを受けてから、福音の祝福が真実であることをずっと知っていましたが、その価値をほんとうに目の当たりにしたのはその瞬間でした。家族として結び固めを受けるためマークとともに聖壇の前にひざまずいたとき、わたしは妻がその場にいるのを感じました。妻の声が聞こえました。妻の手を取っているかのように感じました。わたしは五感すべてによって妻がそこにいることを感じました。そのとき、わたしたちが永遠に家族であることを知ったのです。■



# 子供たちに 奉仕の機会を与える

ジェニー・ベーカー



**初**等協会で奉仕をしている人は皆、静かに座って学ぶ備えができた状態で初等協会に来るのは、子供たちにとって難しい場合が多いことを知っています。指導者の指導力がどれほど卓越しているようにも、あるいは教師がどれほど子供たちを愛しているようにも、子供たちは時々誤った行動を取ります。

末日聖徒は、新しい会員には皆責任が必要だと教えられています。<sup>1</sup> 責任が与えられると教会への帰属感も深まり、学んだり成長したりする機会も与えられることになります。子供たちも奉仕の機会が与えられると、同じような祝福を味わうことができます。

子供たちには、召しという形では与えられませんが、初等協会の指導者たちは、祈りの気持ちで、子供たちの年齢にかかわらず、奉仕の機会を探すことはできます。そのためのアイデアを紹介しましょう。

- 分かち合いの時間のときに、年長の子供に年下の子供たちを助けてもらう。
- 早く着いた子供に、入り口に立って、初等協会に来る子供たちにあいさつをしてもらう。
- 年長の子供に、マイクのスイッチが入っているか確認する責任を割り当てる。
- 年長の子供たちを数人選び、図書室からチョーク、黒板消し、クレヨンなどを持って来てもらう。

- ピアノが弾ける子供に、賛美歌の前奏や後奏を弾いてもらう。
- 二人の子供に訪問者や新会員の隣に座ってもらい、その人に歓迎されているという気持ちを味わってもらう。
- 子供に音楽の指導を手伝ってもらう。
- 何人かの子供に、いすを並べたり片付けたりする手伝いを割り当てる。
- 子供とその家族に、ワードや支部に引っ越して来たばかりの新しい子供を訪問してもらう。
- 子供に絵を持ってもらう。
- あなたの教えを聞きながら、それに合わせて黒板に簡単な絵を描くよう依頼する。
- 子供を何人か選んで、現在学んでいる新しい歌の振り付けを考えてもらう。
- 11歳の子供に初等協会の活動の日の計画を立ててもらう。これは「神への信仰」の達成条件の一つになります。

責任の大小にかかわらず、奉仕をしてくれた子供たちに感謝することを忘れないでください。

わたしはこれまで、奉仕する習慣を身に付けた子供たちと一緒に楽しく働いてきました。子供たちが初等協会の時代に身に付け始めた才能を若い男性や若い女性のプログラムで開花させていく様子を見るのは、実に達成感があります。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「改宗者と若い男性について」『聖徒の道』1997年7月号、56参照

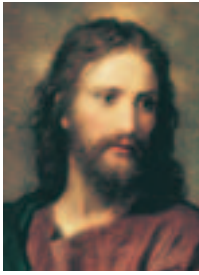


## ほんとうに大切なこととは

七十人のケネス・ジョンソン長老が、家の外壁のペンキ塗りをしていたとき、5歳になる息子が

お手伝いをしたいと言ってきました。長老はそのときの様子を次のように語っています。「わたしの古いシャツを息子に着せると、シャツは息子の体をすっぽり包んで床まで届きそうになり、そでは何回も折らなければなりません。わたしたちは家の中央にある入り口のドアに取りかかりました。息子は下の方にペンキを塗り、わたしは上を担当しました。息子はまだ幼く体もしっかりしていないため、ペンキを均等にのばせず、ペンキの塊を作っていました。はげにペンキをつけようとして彼がしゃがむ度に、わたしは下の方のペンキを滑らかにのばし、気づかれないうちに急いで自分の箇所に戻りました。しばらくして、息子と一緒に働く方が、最高の出来に仕上げることよりもずっと大切なのだと思います。よく考えてみると息子がどんなに頑張っているのかが分かりました。以来、そのドアの前に来て、独特に仕上がったさまを見る度に、わたしは人生で何がほんとうに大切か思い起こしました。」

「人は皆、信頼できる父がいる」  
『聖徒の道』1994年7月号、33から



# キリストを家庭に招く

シンシア・グリーン

**何**年か前のことですが、ワードのある若い女性が「生けるキリスト」<sup>1</sup>を暗唱するのを聞いたわたしは、自分でも暗唱しようと思立ちました。そこでこの「生けるキリスト」を小さくコピーしたものを持って、早朝のランニングをすることにしました。独りっきりで、ほとんどじゃまされるものもなかったため、この時間は自分にとって考えるための理想的なひとときとなったのです。こうして数か月たったとき、わたしは体型もすっきりとしたうえ、暗唱の目標も達成しました。

達成したときにとても良い気持ちを味わえましたが、長い時間にわたって受けた祝福ははるかにすばらしいものでした。わたしは、以前にも増して頻繁に、イエス・キリストとその生涯や使命について考えるようになっていました。そして、もっとイエス様のようにになりたいと思い始めていたのです。わたしは夫や子供たちに接するときも、もっと忍耐と愛をもって接するようになり、自分がどんなことをしていてもそれまで以上に平安と幸福とを感じるようになっていったのです。そして、自分の周囲の人々に心を配り、彼らを愛することに、それまで以上に大きな喜びを感じるようになりました。そして、命の木の実を食べたりハイのように、わたしも自分の経験したことを家族にも経験してほしいと思うようになったのです（1ニーファイ8:12 参照）。

わたしは自分の子供たちに「生けるキリスト」をどう教えたらいいのか、その方法をいろいろと考え始めました。

子供たちがまだ小さく（いちばん上が11歳でした）、この文書は貴重ではあってもいささか長いということを、わたしは承知していました。しかし、わたしの心には強い望みがありました。そのことについて祈り、よく考えたとき、家族を教える方法を、御霊が示してくれたのです。

わたしはそれまで長い間、古くなった教会の機関誌から絵や写真の切り抜きを集めていました。わたしはその切り抜きをためておいた箱の所に行くと、「生けるキリスト」の様々な表現に合致すると思われる切り抜きを引っ張り出し始めました。例えば、「イエス・キリストは旧約の大いなるエホバであり」という表現があると、キリストがエホバとしてモーセと語っている絵を見つけました。次に「御父の指示の下に」という表現があれば、天の御父とイエスが一緒にお立ちになっている切り抜きを見つけました。こうして、わたしは短時間のうちに、数多くの切り抜きを見つけ出し、それを「生けるキリスト」から取った言葉と関連づけることができたのです。

12月という月は、わたしたち家族が「生けるキリスト」に焦点を合わせ始めるのに、ぴったりの時期のように思われました。子供たちは喜んで、わたしたちの試みに乗ってくれたのです。まずわたしたちは、台所に暗唱中の言葉に関連した切り抜きをはり出しました。見ていると、子供たちは絵のわきを通る度に、その言葉を繰り返しています。こうして全員が壁にはった絵の言葉を暗唱できるようになると、それを片付

けて、新しい切り抜きをはって暗唱に取り組みます。

新しい切り抜きをはり出す度に、わたしたちはイエス・キリストの福音と生涯について話し合いました。家庭の夕べのレッスンも、救い主の物語やレッスンがいつでも登場します。夫は、「生けるキリスト」に書かれている教えを幾つか採り上げ、新しい観点から教えてくれました。

家族の祈りもはるかに意味のあるものになってきました。子供たちが、主の御名によって祈る際に、その御方にもっと思いを向けるようになったからです。御霊が我が家に満ち始めました。わたしたちは、「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し」と書いたときのニーファイのような気持ちになり始めました（2ニーファイ25:26）。わたしたちの家庭は、以前にも増して、平安の場所となったのです。

祝福も、想像もできなかったような方法で注がれてきました。例えば、わたしはいちばん下の4歳のジョセフのために、幾つかの言葉を易しい言葉に置き換えてあげようとしたのですが、ジョセフは書かれているまま、言葉どおりに暗唱したいと主張して譲りませんでした。そのことがある週の教会で、特に感動的な出来事につながったのです。その週、聖餐会のプログラムの表紙には、ゲツセマネの救い主の絵が使われていました。我が家でも、暗唱に使った絵です。ジョセフはその絵を指さすと、こう言ったのです。「ママ、見て。『キリストは全人類の罪を贖うた



めに命をささげられました』だよ。」

あるとき、教会で大変な思いをした週がありました。子供たちもいつもとは違って落ち着きがありません。特に聖餐のときがだめでした。翌日の晩、わたしたちは家庭の夕べで聖餐について話し合いました。聖餐を頂く目的や、聖餐が配られている間にどのような態度でいなければならないか、といったことを話し合ったのです。わたしは子供たちに、聖餐が配られている間にどんなことを考えていたか、尋ねてみました。すると10歳になるシャランヌが、イエス・キリストの生涯と「生けるキリスト」に書かれている言葉について考えていたと答えたのです。それ以上何も言う必要はありませんでした。

またあるとき、ジョセフがなかなかベッドに行かないことがありました。協調性もなく、怒りっぽくなっていました。わたしは、「生けるキリスト」の中から何かお話しして、と言ってみました。ジョセフが話し始めると、わたしは御霊が部屋の中に入って来るのを感じました。ジョセフは落ち着きを取り戻すと、いつもどおりの楽しそうな様子に戻っていったのです。その後しばらくして、また別の夜のことで、このときも落ち着きがない様子でしたので、わたしは同じことをしてみました。しかし、そのときのジョセフの反応は随分と違っていました。「嫌だよ。幸せになんてなりたくないんだから。」わたしたちの幼い息子は、イエス・キリストを思い起こすとどうなるか、分かっていたのです。事実、救い主はわた

したちすべてにとって、以前にも増して現実の御方になっていたのです。

わたしたちの家族は、翌年の復活祭のころには、「生けるキリスト」の暗唱を完成させていました。わたしたちはそれまで、あれほど充実した4か月を経験したことがありませんでした。その暗唱プロジェクトが終了しても、わたしたちが学んだことの影響が、生涯を通じて家族一人一人に残っていること

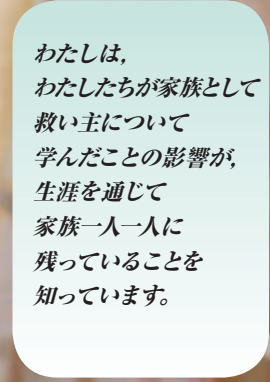
を、わたしは知っています。

わたしは、天の御父とイエス・キリストが現実の御方であられることを知っています。わたしは、御二方の業について理解が深められ、御二方の愛についてもっと深く感じられるようになったことに感謝しています。わたしは神に<sup>たま</sup>対して、神の御子という比類のない賜物<sup>もの</sup>を送ってくださったことについて、そして、御子について学び、もっと御子のようになろうと努力したすばらしい経験について、感謝しています。■

注

- 1.「生けるキリスト——使徒たちの証 末日聖徒イエス・キリスト教会」[リアホナ] 2000年4月号、2-3

わたしは、わたしたちが家族として救い主について学んだことの影響が、生涯を通じて家族一人一人に残っていることを知っています。



# 福音は全世界に の 宣べ伝えられる

**イ**エス・キリストは地上で生活しているとき、この世でも次の世でも人々を幸福に導く生き方について教えられました。イエス・キリストのメッセージは、平和と愛と、神の戒めに対する従順さについてのメッセージでした。「イエスは、神の国の福音を説きまた伝えながら、町々村々を巡回し続けられた……。」(ルカ 8:1) またイエスは、人が天の御父のもとに戻るためにはバプテスマなどの儀式が必要であると教えられました(ヨハネ 3:5 参照)。

イエスは弟子たちに「御国の福音は、……全世界に宣べ伝えられるであ

ろう」と言われました(マタイ 24:14)。それゆえに、主は彼らを「宣教につかわ」されたのです(マルコ 3:14)。主の福音を人と分かち合うこと——これは、今なお主がわたしたちに課しておられる業です。1831年、主は預言者ジョセフ・スミスを通じて次のような啓示を与えられました。「この福音はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に宣べ伝えられるであろう。」(教義と聖約 133:37)

わたしたちは救い主を、福音を分かち合う方法の模範として頼ることができます。救い主は福音について明瞭に教えられました(マタイ 5-7 章

イエスはすべての人を御自分のもとに来るよう招いておられます。わたしたちは、福音を分かち合うことによって、人々が主のもとに来るのを助けることができます。そのための方法をこれから少し紹介しましょう。



参照)。救い主は、たまたま空いた短い時間さえも福音を分かち合うために有効にお使いになりました(ヨハネ 4:4-42 参照)。また、救い主は人に対して純粋な愛と関心を示されました(3 ニーファイ 17 章参照)。わたしたちも同じようにできます。■

「**教**会に限られた範囲でしか影響力を及ぼすことのできない地域、現在のところ福音を自由に伝える許可が下りていない地域のために、これからも信仰をもって祈りをささげてください。そうするならば、奇跡が起こるに違いありません。」

トーマス・S・モンソン大管長  
「大会へようこそ」  
「リアホナ」2009年11月号、  
5-6





1. イエス・キリストの福音に従う  
ことで感じている喜びを表現する。



2. あらゆる人と親しくなる。



3. 友人を教会の集会や活動、  
奉仕活動に招待する。



4. 信仰を共にしていない人々に  
モルモン書や『リアホナ』を渡す。



5. インターネットを使って福音を  
分かち合う。例えば、ブログを使っ  
て証を述べたり、Mormon.org の  
ような教会のウェブサイトを紹介  
したりすることができます。



6. 若い世代の男性、女性として、  
あるいは年配者として伝道に出る  
準備をする。



7. 友人や隣人を誘って、宣教師から教えてもらう。

「あなたがたはこの民に悔  
い改めを叫ぶために召  
されている。

あなたがたはこの民に悔い  
改めを叫ぶことに生涯力を尽く  
し、一人でもわたしのもとに導  
くならば、わたしの父の王国で  
彼とともに受けるあなたがたの  
喜びはいかに大きいことか。」  
(教義と聖約 18 : 14 - 15)

もっとお知りになりたい方は、『福音の原則』189 - 195、『真  
理を守る』151 - 153をご参照ください。



七十人  
ケント・D・  
ワトソン長老

# 熟年の 宣教師たち

**ア**ジア地域会長会の一員であるわたしは、45年以上前に愛するようになった地域で奉仕するという特権を得ています。若い宣教師だったころに奉仕した場所です。当時とはずいぶん変わりました。そのころ南部極東伝道部だった地域に現在25以上の伝道部が置かれています。わずかな数の支部に一握りの会員しかいなかったのが、今では75万人の会員がいます。教会堂はあちこちに建てられ、神殿での礼拝もアジアの会員にとって身近なものになりました。

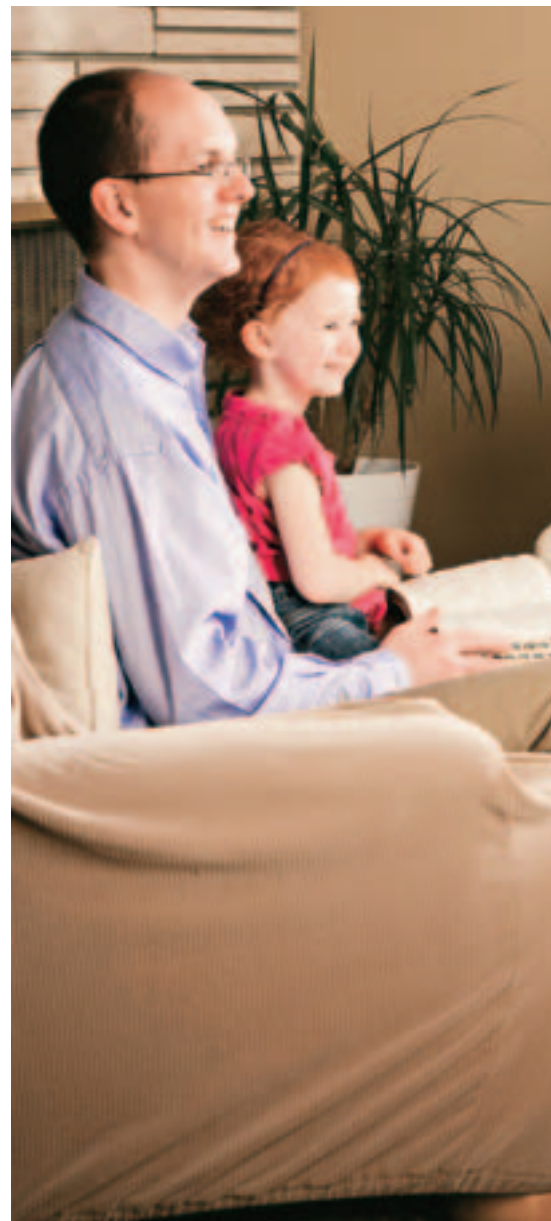
アジアで教会が発展するにつれ、わたしは、見返りや誉れやその他この世の報酬を求めない、ある人々を愛し高く評価するようになってきました。彼らは天の御父に栄光を帰することだけを求めています。その人々とは、熟年の宣教師たちです。—— 彼らはすばらしい、経験豊かな兄弟姉妹たちで、静かにまた熱心に、「この教会の基礎を据え……、暗黒から、また暗闇から、……教会をもたらす」のを助けています（教義と聖約1:30）。

彼らの経験、信仰、証、愛は、主の

ぶどう園でわたしたちが担当しているウランバートルからニューデリーまで教会を確立し強める働きの中ですばらしい奇跡を起こしています。彼らはミカが次のように述べた人たちです。「ヤコブの残れる者は多くの民の中にあること、……主からくだる露のごとく、青草の上に降る夕立のようである。」（ミカ5:7）

多くの場合、彼らは召された場所を聞いて驚きました。恐らくある人々は、ニネベよりもタルシシを選びたいと思った預言者ヨナと同じように感じたことでしょう。けれども彼らは、「主の前を離れてタルシシへのがれよう」としたり、「三日三夜その魚の腹の中にいた」りはしませんでした（ヨナ1:3, 17）。むしろ、自分たちを召されたのは主であることを理解しながら、「彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従 [いました。]」（マタイ4:20）

彼らの割り当ては多岐にわたり、神殿での奉仕、セミナーやインスティテュートの教師、伝道本部での奉仕、永代教育基金の管理、支部での奉仕（教える、訓練を施す、再活発化する、分かち合う）、仕事の能力の改善や、





熟年宣教師に割り当てられる奉仕は数多く、多岐にわたっています。



彼らは「主からくだる露のごとく、青草の上に降る  
夕立のようである。」



### 欠かせない存在

「南」アメリカの福祉宣教師として、わたしたちは教会員や一般の人々と協力する特権にあずかりました。教会と様々な機関との協力の下で、多くの人道支援プロジェクトを実施しました。

わたしたちは時間の大半を、孤児院、病院、監獄、診療所、そして恵まれない人々、体に障がいのある人々、貧しい人々、乏しい人々を助ける財団とともに働くことに費やしました。

若い宣教師のように、レッスンという形では福音を教えませんでした。わたしたちは助けの必要な人たちが支援を得て彼らの生活が変わっていくのを見たとき、そして、その支援のほんとうの源を理解して彼らの信仰が増していくのを感じたときに、たくさんの霊的な経験をしました。

豊富な人生経験を持っている夫婦宣教師は、伝道に欠かせない存在です。教会はかつてないほど夫婦宣教師を必要としています。さらに、伝道地で得られる祝福は、伝道に出ることが可能な夫婦にとって必要なものです。」

チャールズ・E・カートミル、ジュリア・カートミル  
(アメリカ合衆国アイダホ州)

フォトイラストレーション/スティーブ・バンダーソン、李麗麗、ロー・ヒンギョ、ウエルマン・C・アンダーセン、コフィー・ベル、マレル・パーロウ、デビッド・ストーカー



## わたしたちは熟年の夫婦を必要としています

こうした大勢の献身的な主の僕しもべの中に、高齢の夫婦が増えています。夫婦宣教師はこの業になくてはならない貢献をしています。夫婦宣教師は、この教会のほとんどすべての伝道部で大いに愛され、必要とされています。

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド  
「わたしにつながって下さい」  
「リアホナ」2004年5月号, 30

より良い仕事に就く手助け、専門分野での奉仕（法律、財務、工学、教育、医療）、人道支援の調整、洪水、地震その他の自然災害時の救援などが含まれます。中には、新しい会員を見つけて教え、バプテスマを施す人々もいます！

フィル・フランドセン長老と妻ブレンダ姉妹も、その中の1組です。彼らは台湾の高雄カオシュンで奉仕しました。フランドセン長老は、たくさんの責任に加えて、伝道部会長補佐としても奉仕しました。以下に掲載するフランドセン夫妻との短いインタビューは多くの夫婦の思いや気持ちを代弁していて、伝道を考えている人々にとっては大いに参考になるでしょう。

### 伝道に出ることについて検討していたころは、何を考えていましたか。

フランドセン姉妹 —— 「わたしたちはいつも、子供が成長したら伝道に行こうと話していました。いざその時機になってみると、どこに行き、どんな奉仕をしたいか、意見を合わせるのは

大変でした。よく話し合った後で、フランドセン長老は、主にお任せしようと言いました。伝道の召しを受け取ったとき、この上なく興奮しました。この召しをととても特別な祝福だと思っています！」

### 昔伝道した場所へ戻って行くことについてはどうに感じましたか。

フランドセン長老 —— 「44年ぶりに戻ることは、とても価値のある経験です。貸しビル住まいの小さな支部が一つだけだった地域に、今ではすばらしいステーキセンターが建っています。よく知っていた当時8歳の少年が、今では献身的なステーキ会長です。世界の中でもこの地域の発展ぶりは、ほんとうに驚くべきものです。フランドセン姉妹と一緒に、一人一人が証を得て、証を強められるように助けながら、毎日新しい霊的な経験をしています。」

### 効果的に働いていると感じますか。

フランドセン長老 —— 「才能と経験を生かすことができている。思いも寄らない才能があることにも気づきました。わたしは中国語をほとんど当時のように使えるようになりましたし、フランドセン姉妹は中国語で電話に応じたり、名前を読んで手紙を転送したりできています。この年齢で新しい技術を習得するのは、年寄りの頭には良いことだと感じています！」

### でも、家族についてはいかがですか。

フランドセン姉妹 —— 「子供や孫から離れるのは心配でした。でも、熟年の宣教師に使うことが許されている高度な通信技術には驚きました。

ある面では、家にいたときよりももっとよく連絡を受けたり、顔を見たりしています。わたしたちがここにいる間に少なくとも4人の孫が生まれる予定です。そのことをわたしたちはいちばんの祝福だと思っています。生まれたばかりの赤ちゃんを抱く機会は逃すことでしょうが、何か記念すべきことが起こる度に、すぐに写真や動画を見ることができるようでしょう。家族から引き離されているというよりも、多くの点で、この伝道はわたしたちを近づけてくれました。」

フランドセン長老 —— 「実は、伝道に出たことで家族が広がっているように感じているのです。わたしたちはここにいる若い宣教師たちの『祖父母』なのです。毎日、彼らの伝道の経験を聞く度に胸が躍ります。わたしたちは彼らを愛し、彼らもわたしたちを愛しています！ 帰還宣教師が福音を人に分かち合った経験を聞くときわくわくしませんか。わたしたちはそのような経験談を、新鮮なうちに、ほとんどありのままの状態、毎日聞いています。宣教師たちが成熟し、効果的な福音の教師や指導者になっていく様子を見守るのは、きわめて貴重な経験です！」

フランドセン姉妹 —— 「家を離れていますが、わたしたちは今でも故郷アリゾナで伝道を続けています。親しい友人のうちの二人が宣教師を家庭に招いています。さらに、娘とその夫はだれかに福音を分かち合うと決心しました。その結果、友達の一人が最近バプテスマを受けたのです。奉仕しようとするほど、もっとたくさんの祝福を受けます。主を追い越すことは不可能です。」





### 伝道は個人的な満足を与えてくれますか。

フランドセン長老——「伝道は決して退屈になりません！ 毎日新しいチャレンジと、新しい冒険があります。伝道本部の責任以外にも、わたしたちは土曜の朝に英語のクラスを教え、日曜の朝には日曜学校の福音の教義クラスを教えています。週に2回、帰還宣教師が大学入試に備えるための英語クラスを教えています。さらに、求道者を見つけたり教えたりする活動に加わっています。一つ一つの奉仕の機会が、福音を教えるための新しい扉を開いてくれます。」

### 伝道を考えている夫婦に何かアドバイスがありますか。

フランドセン姉妹——「わたしがいちばん不安だったのは健康のことでした。でも反対に、健康は祝福されています。わたしたちの伝道スケジュールは健康的です。早く起き、早く床に就き、毎日運動し、栄養価の高いものを食べます。主は宣教師がよく働けるように強さを祝福してください。心配する必要はありません！」

フランドセン長老——「わたしたち夫婦宣教師は犠牲を払っている、と故郷の人々が思うとき、わたしたちは時々笑みを浮かべます。犠牲もあり

ますが、神から毎日受けている祝福、喜び、満足感に比べたら微々たるものだからです。」

フランドセン夫妻の経験は典型的であり、アジア各地で奉仕している熟年宣教師たちも同じように答えています。最近、ある熟年夫婦はクリスマスの時期を家で過ごすために1か月早く伝道を終えてはどうかと勧められ、胸を詰まらせていました。彼らの涙は、クリスマスに子供や孫たちと一緒に過ごせることに対する喜びの涙だろうとわたしたちは思いました。彼らの涙が悲しみの涙であることを、わたしたちはほとんど理解していませんでした。宣教師として奉仕する機会はまだ二度とないかもしれないと分かっていた彼らは、あと1度しかない最後のクリスマスを伝道地で過ごしたかったのです！

わたしは熟年宣教師を尊敬しています。彼らは、この教会の基礎を据え、教会を暗黒から、また暗闇からもたらすために必要とされる場所に与えられた真の力です。■

熟年の方々のためにどのような伝道の機会があるか理解を深めるために、[www.lds.org/csm/index.html](http://www.lds.org/csm/index.html) [英語] にアクセスしてください。

上、左から——

フランドセン長老夫妻、

同じ地区の宣教師たちとともに。

フランドセン長老が若い長老たちと

伝道に出かける準備をしている。

フランドセン姉妹が初等協会で

奉仕をしている。

メキシコ・メキシコシティー神殿では、オルティス兄弟姉妹が奉仕した(下参照)。

ロベズ長老夫妻は

ブラジルの教会歴史を集めて書くのを助けるように召された。

### 奉仕の祝福

「**妻**とわたしはメキシコシティー神殿で奉仕するよう召されました。この召しの神聖さに喜びを感じながら奉仕しました。しばしば自分たちが得ているすばらしい経験について話し合い、御霊を感じて涙を流したものです。わたしたちの人生で最も幸せで最もすばらしい時でした。主の偉大な業に対する愛と信仰をもって主に仕えていたので、わたしたちの信仰と証は増しました。」

ペドロ・コルドバ・オルティス  
(メキシコ・アグアサカリエンテス)

# 宣教師ガイドの枠を超えて

教会機関誌  
メリッサ・メルル

個人学習に。家庭に。  
日曜学校のレッスンに。  
そして、当然ながら伝道活動にも。  
これはすべて、マサチューセッツ州  
ビンガムステークの会員たちが  
『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を  
使っている方法です。

**ク**リス・アイビーは伝道地のフランスで、求道者が一人も集会に出席していないという状態が1年以上続いている小さな支部で奉仕したことがありました。その支部の会員たちは、最後にあったバプテスマがいつだったかも思い出せないほどでした。

アイビー長老は同僚と何をすべきか祈り、その結果、支部の全家族に『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を配り、活用してもらうべきだと御霊の促しを受けました。2006年初めのことです。この『伝道活動のガイド』が出てからまだ1年ほどしかたっていないときです。アイビー長老と同僚は御霊の促しに従い、ガイドを注文して支部の会員に配りました。

支部が大きく変わる第一歩でした。アイビー長老はわずか2か月後に別の任地に移りましたが、その短い間にも、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』





によって青少年、成人を問わず、会員の伝道に対する気持ちが変わっていくを見守ることができました。

「効果があったのです！」とクリスは当時を思い出して言います。「会員たちは伝道について考え、福音を分かち合う努力をして、すばらしい経験をしていました。支部の伝道活動が久しぶりに活気を取り戻したのです。」

会員たちは福音について家族や友人や職場の同僚と話したことを宣教師に定期的に報告し始めました。友人

が支部の活動に参加したときには、ほかの会員たちが温かく歓迎しました。おかげで、アイビー長老と同僚は戸別訪問の時間を減らし、福音を教えることに集中できるようになったのです。そのように教え始めた求道者の一人が後にバプテスマを受けました。

「教会では伝道は宣教師だけがするものと誤解されていることがあります」とクリスは言います。「でも、この支部の会員は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を勉強して備えられ、求道者を見つける役割の一端が自分たちにあることに気づいたのです。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が彼らの伝道精神に火をつけたと言えます。」

クリスは伝道を終えてマサチューセッツ州メドウェイに戻ってから3年近くたちますが、今も毎日の聖文学習の導入に『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使っています。「この本のおかげで、わたしはより良い宣教師にも、福音の教師にもなることができました。今も、より良い、もっとキリストのような人になるための助けとなっています」とクリスは言います。

マサチューセッツ州ヒンガムステークの会員で、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に専任宣教師用ガイドの枠を超えた力を見いだしている会員はクリスだけではありません。確かに専



「この支部の会員は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を勉強して備えられ、求道者を見つける役割の一端が自分たちにあることに気づいたのです。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が彼らの伝道精神に火をつけたと言えます。」  
クリス・アイビー



「目標を設定して、その達成のために努力すれば、能力を伸ばし、より良い人になることができます。これを教えてくれた『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に感謝しています。」  
ジェームズ・セッターバーグ

任宣教師のために開発された資料ではありますが、ヒンガムステークの会員宣教師たちは、このガイドに自分たちの生活をも祝福し豊かにする可能性を見いだしています。

### 伝道地から家庭まで

ジェームズ・セッターバーグも『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使って伝道した最初の宣教師の一人でした。2005年にテキサス州ヒューストン東伝道部に赴任したとき、ほかの宣教師たちは数か月前からこのガイドを使っていました。しかし、ある地元の神権指導者の模範を通して、セッターバーグ長老は、このガイドが役に立つのは専任宣教師だけではないことに気づいたのです。

「ある区域で、わたしたち宣教師はステーク会長の家に間借りしていました。毎朝、彼らは聖文学習をしていたの

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に載っている教義を学んで、基本的な事柄の持つ力がより深く理解できるようになり、回復、信仰、贖い、悔い改めなどを学ぶことで強さが得られることがよく分かるようになりました。このような一連の教義には大いなる力があります。」

ジェイク・ピーターソン

ですが、その中で『わたしの福音を宣べ伝えなさい』からも様々な章を勉強していたのです。この書物はだれでも使えること



に気づいたのはそのときでした」と彼は言います。

伝道後、彼はその教訓を家に持ち帰りました。「伝道の前は、自分の人生にはっきりした目標を定めたことがありませんでした。あまり遠大

な目標を考えたくなかったのだと思います」と認めます。「でも、伝道部会長が目標設定を強調していたことと、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の第8章を読んだことがきっかけで考えが変わり始めました。」

2年間、毎週計画会を開いて目標設定をしたことが習慣になり、ジェームズは伝道から帰った後も目標設定を続けてきました。今では教育の目標や霊的な目標などを設定し、達成に向けて努力しています。「目標を設定しなければ、人生で自分がどの辺まで進歩しているか分からないことに気づいたんです。でも、目標を設定して、その達成のために努力すれば、能力を伸ばし、より良い人になることができます。これを教えてくれた『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に感謝しています。」

### 教会と家庭で教える

宣教師として『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使った経験のない会員もその力を発見しつつあります。ジェイク・ピーターソンはステークのヤングシングルアダルト支部の会員です。伝道したのは『わたしの福音を宣べ伝えなさい』ができる前でしたが、なぜ福音を分かち合うの

か、その理由が説明されているため、支部伝道主任の召しを果たすうえでかけがえのない資料になっていると言います。「わたしたち教会員はこのように考えることがないでしょうか。『伝道、伝道と大騒ぎするのはなぜだろう。近所の人たちは皆善良で善い人たちだ。彼らに教会のことを話して気まづくなる危険を冒す必要があるのだろうか。』『わたしの福音を宣べ伝えなさい』ではそんな問題も採り上げています。また、わたしたちが友人と話して福音を分かち合う理由が説明されています。それは、イエス・キリストの福音が『彼らの家族に祝福をもたらし、彼らの霊的な必要を満たし、心の奥底に宿る望みを成し遂げるよう助けて』くれるからです。」<sup>1</sup>

また、すべての会員が基本的な福音の教義をしっかりと身に付ける助けにもなると彼は言います。「福音の第一の原則を何度も繰り返し教えるようにという、ハイラム・スミスの言葉が好きです。<sup>2</sup> その言葉や、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に載っている教義を学んで、基本的な事柄の持つ力がより深く理解できるようになり、回復、信仰、贖い、悔い改めなどを学ぶことで強さが得られることがよく分かるようになりました。このような一連の教義には大いなる力があります。」

もう一人、同じステークの会員リック・ドーンは『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が出版された当時、ワードの伝道主任として奉仕していました。リックはこの新たなツールが召しを果たすうえで助けになると直感しました。

「ステークやワードの指導者と協力して働く方法についての章が設けられているのがありがたいですね。宣教



### 注文する

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は多くの言語に翻訳されており、配送センターを通じて購入することができます。また、preachmygospel.lds.org からPDFファイルをダウンロードしたり、音声ファイル（英語）を聞いたりすることができます。



師たちには出入りがありますが、長く地元にいるのはワードの指導者です。継続できるかどうかは彼らに懸かっているのです。この本がその重要性を強調しているところが素晴らしいと思います」とリックは言います。

リックと妻のモシは、息子たちを教える教材としての可能性も見いだしました。「各章にある15分のレッスンが家庭の夕べに最適なんです」とリックは説明します。「原則に焦点を当てたレッスンですから、基本を守る助けになり、自分と子供たちのためにしっかりした土台を築いてくれます。聖文や活動も載っています。素晴らしい資料ですから、家庭に限らず、どこで教えるときも役に立ちます。」

### 将来への備え

19歳のマーク・ワズワースは現在スペイン・ビルバオ伝道部で伝道しており、日常的に『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使っています。しかし、学び始めたのは伝道に出る前です。「読み直す度にいつも新しいことを学びます」と彼は言います。

伝道に出る前に『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を勉強したことで、彼は伝道できるチャンスを認識できるようになりました。住んでいる区域の宣教師がマークの家族の家族伝道計画作りを手伝ってくれました。「そのおかげで伝道活動をより自主的に考えられるようになりました」と彼は言います。その結果、友人との会話で教会の教義や歴史や教会関連の活動について話す機会が増えました。

「家族で計画を作る前にも教会について話す機会は同じぐらいあったのかもしれませんが。でも、そういう機

会に対する自分の反応の仕方が変わったのです」とワズワース長老は言います。「自分ですでにしていることについて考え方を少し変えたただけなんです。」

18歳のアンドリュー・メロが宣教師推薦書を提出するのはまだ数か月先ですが、今から積極的に準備しています。準備する方法として『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は最高だと彼は言います。

個人の学習によっても準備をすることができました。祭司定員会の訓練も良い準備となりました。毎月第1日曜日には定員会のメンバーが割り当てを受けて、ほかの祭司たちとアドバイザーに『わたしの福音を宣べ伝えなさい』からレッスンを教えています。45分を全部使ってレッスンする場合もあれば、練習のために、幾つかのレッスンを15分か5分の短い時間ですることもあります。

アンドリューは、こうして備えることで専任宣教師に必要な能力が養われただけでなく、現在の生活にも役立っていると言います。

「気がつくといつも『わたしの福音を宣べ伝えなさい』で学んだことを考えています」とアンドリューは言います。「高校でモルモンはほくだけですから、どんなことを信じているのかよく質問されます。そんなとき、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』で学んだレッスンや方法を使って



「基本を守る助けになり、自分と子供たちのためにしっかりした土台を築いてくれます。聖文や活動も載っています。素晴らしい資料ですから、家庭に限らず、どこで教えるときも役に立ちます。」

リック・ドーン



「読み直す度にいつも新しいことを学びます。」

マーク・ワズワース

「質問や会話の中で、話が脱線しそうになる場合があります。でも、勉強したことを応用しながら、軌道を修正して実り豊かな話し合いに導くことができると最高の気分になります。」

アンドリュー・メロ



友人や知人に福音について説明できるようにになりました。

質問や会話の中で、話が脱線しそうになる場合があり

ます。でも、勉強したことを応用しながら、軌道を修正して実り豊かな話し合いに導くことができると最高の気分になります」と続けます。

19歳のアンドリュー・ホビーもアンドリュー・メロと同じく高校生のときに『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を手にした一人ですが、その価値に気づいたのは大学1年生のときでした。帰還宣教師のルームメートの影響と、伝道の備えクラスで受けた刺激によって、アンドリューはそれまでより力を入れて伝道の備えを始めました。祈りはいっそう主を身近に感じる

有意義なものになり、聖文学習はより目的意識を持ったものになって、伝道の計画がさらに現実味を帯びてきたと彼は言います。さらに、伝道に集中して備えられるよ

うに『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使い始めたのです。

その後、アンドリューは『わたしの福音を宣べ伝えなさい』で学んだ原則の関連聖句に印を付け、色分けし、勉強中に浮かんだ考えや印象を体系的に記録する独自の方法を作り上げました。しかし、重要な

はある決まった方法で印付けや色分けやメモ書きをすることではないと、彼はすぐに言いました。むしろ、「勉強は自分にいちばん合った方法であればいいんです」と彼は言います。「福音のすばらしいところはそこです。人は皆それぞれ違うのに、福音はだれにもびったり合うんです。

それは『わたしの福音を宣べ伝えなさい』も同じです。基本的な原則を幅広く教えてくれるので、手引きとして使えるのです。自分の勉強のためにも、人の心を動かすためにも、必要に応じて使うことができます。」

ヒンガムステーキのもう一人の若者、パトリック・スミスの報告によると、彼の支部の若い男性たちは月に1度、アロン神権者の集会で、自分がした伝道の経験を報告し合い、専任宣教師と一緒に奉仕する時間を設定しているそうです。

「先日、宣教師たちと一緒に、ある家族を教えに行きました。その家族はジョセフ・スミスの経験についてすでに教わっていました」とパトリックは言います。「長老たちに、キリストが地上に来て御自身の教会を設立されたことを教えるよう頼まれました。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』には全部、分かりやすく説明されていますし、根拠となる参照聖句も載っています。全部そこにまとめられています。」

教える内容についてはよく知っていましたし、証もありました。けれども、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』から学び、宣教師の同僚として伝道活動に参加することを通して、これらの原則をよりよく教えることができました」とパトリックは言います。

「教える内容についてはよく知っていましたし、証あかしもありました。けれども、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』……を通して、これらの原則をよりよく教えることができるようになりました。」

パトリック・スミス



「わたしたちに与えられた責任は御父の業の達成を助けることだと気づいたのです。」

トム・スミス





「この本にまとめられている教義は、わたしが物心ついてからずっと家庭や初等協会で学んできたことをより強固なものにしてくれました。それに、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』で教えられている事柄は御霊を招いてくれます。御霊こそ、教会について話すときに最も重要なものです。」

### 天の御父の業と栄光を達成する助けに

パトリックの兄のトムは、2009年8月、カリフォルニア州ベンチュラ伝道部での伝道を終えて帰って来ました。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は伝道するための最高の道具の一つだと感じています。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が宣教師時代に大いに役立ったことに感謝していますが、12から13ページの預言者の言葉は大半が福音を分かち合うことに関する会員の役割について述べていると指摘します。伝道が専任宣教師だけの務めではなく、会員の行うべき部分がどれほど大きいかを示していると言います。

「伝道が終わりに近づいたころ、わたしは宣教師の責任と、そしてこの業

がわたしたち、つまり宣教師と会員に与えられた理由について勉強していました。モーセ書第1章39節を読み、天の御父の観点から伝道活動を考えてみました。御父が望んでおられるのはただ一つ、御自分の子供たちがみもとに戻って来ることです。そこで、わたしたちに与えられた責任は御父の業の達成を助けることだと気づいたのです。

会員として伝道に携わるようになった今、わたしは欠かさず聖文を学び（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』

の勉強も含む）、祈って、御霊を求めれば、どんなことも達成できると知っています。そして、福音を自分の生活の中心に据え、よりいっそう理解できるように努力すれば、福音を分かち合い、証することは容易になるでしょう。」■

#### 注

- 1.『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』（2004年）1
- 2.『わたしの福音を宣べ伝えなさい』6参照

### 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に関する説教

**次**の説教や記事にLDS.org〔英語〕からアクセスできます（日本語版はldschurch.jp）。

- 十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老「人々をわたしのもとに連れて来なさい」『リアホナ』2009年5月号, 109
- 中央扶助協会会長会第一顧問 シル

ピア・H・オールレッド「それゆえに、あなたがたは行って」『リアホナ』2008年11月号, 10

- 七十人 エリック・W・コピシュカ長老「『わたしの福音を宣べ伝えなさい』——会員と宣教師をつなぐ道具」『リアホナ』2007年11月号, 33
- 十二使徒定員会 M・ラッセル・バラ

ド長老「福音を伝える家庭を築く」『リアホナ』および *Ensign*, 2006年5月号, 84

- 十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老「『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の持つ力」『リアホナ』および *Ensign*, 2005年5月号, 29





主を見いだす

# トンガ

の人々

教会機関誌  
ジョシュア・J・パーキー

トンガの  
会員たちは、  
主の業のために  
犠牲を払うことで、  
あふれるばかりの  
祝福が注がれる  
と語っています。







**ト**ングの本島、トンガタブ島の北東部に霧深く涼しい朝が訪れると、フィリモーネ・テュフイ・パシ兄弟はトンガ人の言うところの「茂みでの1日」のため、つまり自分の農地で働くために身支度をします。農地にたどり着くまでは、軽量コンクリート造りの家を取り囲む沼地を通り抜け、背の高いヤシの木々の下や、タロイモの広い葉をくぐって歩きます。

ところがこの日、ステーク会長会顧問のパシ会長は「茂み」へ行くことはできません。教会員たちが助けを求めてやって来たのです。物静かで謙虚なパシ会長は黙ってうなずき、家に引き返し妻のアナ・マリーナ姉妹に事情を説明します。この日、妻と娘は学費と伝道中の子供たちの資金を稼ぐために、タバ布を作るようになっていました。

数分のうちに、パシ会長は準備を整えて今度はワイシャツとネクタイ姿で会員たちのもとへ戻って来ました。この決断は1日分の稼ぎを犠牲にすることになります。しかし、会長の顔に浮かぶ満足の笑みには、主の業を行っているという自覚が表れ、損失が十分に埋められていることが分かります。会長はこう述べています。「わたしはこのように生活しようと努めてきました。だからこそ、主はこれほど多くの祝福を下さったのだと思います。」

このように献身的で忠実な行為は、トンガの末日聖徒の間ではごく普通に見られます。聖徒たちは福音に忠実に従う生活を通して祝福を受けると証あかししています。

### 奉仕する信仰

教会で育ったリオーラ・クリスティーン・ナウ・ヒンガノ姉妹は、宣教師が地域社会で奉仕する姿をしばしば目にしました。「わたし自身も伝道に出たいと思いました」と語っていますが、奉仕はたやすいことではありませんでした。

リオーラは伝道の申請を出したすぐ後、重い病気になるしました。腫瘍しゅようが見つかり、取り除く手術を受けなくてはなりません。入院中にトンガで奉仕する伝道の召しを受けました。伝道を始めると2か月の回復期間がありましたが、両親が伝道は娘にとって負担が大きすぎるだろうと考え、伝道に行ってほしくないと思うようになったので、リオーラにとってはつらい時になりました。

「でも、主から召されたのだから大丈夫だと信じて、行く決心をしたのです」とリオーラは語っています。「宣教師訓練センターへ入ると、伝道部長が祝福してくれました。主に仕えている間は、ほかの宣教師と同じように健康でいられると言わ

上——  
 リオーラ・  
 ヒンガノ姉妹  
 (挿入写真)は  
 インスティテュートで  
 教えるほか、  
 日曜学校の  
 青少年クラスを  
 教えています。  
 左奥——  
 フィリモーネ・  
 パシ兄弟と  
 妻のアナ・  
 マリーナ姉妹。  
 挿入写真——  
 妻や娘たちが  
 カジノキの  
 樹皮から作る  
 タバ布を見せる  
 フィリモーネと家族。



れたのです。

最初の任地ではとてもつらかったです。伝道していた地域へ行くだけでも毎日かなりの距離を歩きました。日差しの強い中、聖典を持って歩きました。でも大丈夫だと分かっていた。神権の祝福の中でそう言われていたからです。そのとおりでした。以前の病気のせいで問題が起きることは一度もありませんでした。

伝道に出る勇氣、後ろを振り返らない勇氣を持たせたことに心から感謝しています。今の自分があり、証があるのは、まさに伝道のおかげです。わたしたちの救い主と天の御父を信じる信仰を持っています。」

### 天の窓を開く

リオーラが証のゆえに忠実に奉仕したように、ほかの会員たちも従順を通してそのような証を得てきました。アーナウ・バーナ・ハーラ兄弟もその一人です。少年のころバプテスマを受けましたが、すぐに教会を休みがちになりました。姉は活発な教会員でしたが、アーナウは教会へ戻る気持ちはなく、長い間、遠ざかっていました。

大人になり、末日聖徒のキナクイア(キナ)・ハーラ姉妹と結婚しました。ある日、悩みの種が生じました。妻が什分の一を納め始めていたのです。

アーナウはこう述べています。「がっかりしました。学校の教師だったので、あまり稼ぎがよくなかったのです。もう什分の一を納めてほしくありませんでした。この問題で二人は数年間、口論しました。」

キナは、什分の一を納めることが善いことだと

上——  
アーナウ・バーナ・  
ハーラ兄弟と  
妻のキナと赤ちゃん。  
下——  
クームフォヌア・  
タウモエベヌ兄弟  
(中央)は  
妻と子供たちとともに、  
すべての祝福は  
主から授かることを  
証しています。

夫を説得しようと、あらゆる手だてを試みました。「妻の依頼でホームティーチャーがわたしたちに什分の一について教えました」とアーナウは述べています。「わたしは什分の一について何度もレッスンを受けましたが、拒み続けました。」

「するとある日、一緒に什分の一の戒めを守り、その結果どうなるかを試してみようと妻に言われました。わたしにとっては難しい決断でしたが、和解を望んで同意しました。」

程なく生活の中の小さな変化に気づくようになりました。「まず什分の一を納め、次に請求書の支払いを済ませると、残りはほとんどありませんでした」とアーナウは説明します。「でも、その後で祝福を受けました。時には外国にいる親戚やほかの人々から突然助けを受けたこともありました。いつも生活に事欠くことはありませんでした。」







祝福は金銭的なものにとどまりませんでした。アーナウはこう述べています。「わたしは教会に活発になり、家庭は円満になりました。食料やその他の生活用品にお金がかかることは分かっていたのですが、養子をもらうことにしました。でも忠実に什分の一を納め、主から求められることを行うなら、何とかうまくいくことを知っていました。前より良い仕事に就くこともできました。リアホナ高校という教会の学校で働く仕事です。そして、わたしたち夫婦は神殿で結び固めを受けました。

最も大きな祝福は、平安と喜びを感じることです。什分の一を納めるなら、経済的な問題に対処できると知っているからです。什分の一の原則を受け入れた瞬間から、主はわたしの家族を祝福し続けてくださっています。その原則が真実であることを知っています。」

### わたしたちの信仰の影響力

クーミフォヌア(フォヌア)・タウモエペヌ兄弟は、長い間教会に来ていなかった後でさえ、強い確信を得られるということを知りました。1995年にバプテスマを受けてから間もなく、フォヌアは教会で多くの責任を果たしました。また清涼飲料水の会社で働き、業績を上げてすぐに昇進しました。

しかし出張が多く、徐々に霊的な信念から遠ざかるようになりました。しばらくすると、避けるべきだと分かっている事柄に手を染めるようになりました。

ある日フォヌアは数人の男に囲まれ、何のいわれもないのにひどく殴られて、病院に担ぎ込まれました。入院中、自分の生活とこれまでしてきた間違っただけの決断を反省するようになりました。「生き方がどこか間違っていたことに気づきました」とフォヌアは述べています。「子供たちはわたしのまねをして、同じような間違いをしてくれました。すべきでないことをしていたのです。」

フォヌアは今こそ変わるべきだと決意しました。悔い改めようと一生懸命努力し、神殿に入るためにふさわしくなり、定期的に参入するようになりました。ある夕方、神殿で自分の生活を反省しました。こう述べています。「神殿に入る資格があることは分かっていたのですが、

### 断食とモルモン書の力

テレシア・ファラタウ姉妹はバプテスマを受けた後も、新しい宗教になじむのに苦労していました。

「時々夫の家族と一緒に教会に出席しました。夫は活発ではなかったからです」と姉妹は語ります。「わたしは扶助協会で教えられたことに特に感銘を受けました。」

テレシアは良い教えと姉妹たちとの交わりを楽しみました。

「でも家では問題がありました」とテレシアは語ります。「子供ができるまで、夫もわたしも何かしなければと決心しました。」平和な家庭を築きたかったのです。

二人は活発な教会員になることに加え、二つのことを実行しようと同意しました。毎週金曜日に断食し、毎日モルモン書を読むことです。さらにテレシアは述べています。「わたしは固い決心をしました。必ず実行しました。夫もよく頑張ってくれました。」

家では前より良い気持ちでいられるようになりました。二人は断食しモルモン書を読み続けました。夫婦の信仰が強められ、子供たちは福音の中で成長し、家庭は平安に満ちた場所になったとテレシアは述べています。数年たった今では、二人とも神殿で奉仕しています。

「わたしたちの生活が変わったのは、あの忠実な扶助協会の姉妹たちのおかげです」とテレシアは語ります。「それに、モルモン書を研究し、断食しようと固く決意したためです。」





上——  
ベアー・  
タウフォオウ兄弟は  
自分の  
人生について語り、  
自分がささげた  
犠牲が天の祝福を  
もたらしたと  
強調しています。  
祈りと断食の力を  
働かせた後、  
婚約者とともに  
ニュージーランドへ行き、  
神殿で結婚することが  
できました。  
自分たちの経済力では  
とうていできなかった  
ことでした。

落ち着かない気持ちでした。過去の生活を振り返り、自分のしてきたことを顧み<sup>しもべ</sup>ました。主の良い僕ではありませんでした。答えを受ける必要もありました。清い生活がしやすいような新しい仕事に就きたいと思いました。」

ちょうどそのころ、ニュージーランドに給料のいい仕事があるという話を持ちかけられていました。家族からは、またとない機会なので受けるように勧められました。「でも、トンガの家族から離れることが心配でした。それに、そんなに遠い所で暮らして、清い生活ができるだろうかと気がかりだったのです」とフォヌアは述べています。

神殿でフォヌアは心からの祈りを天の御父にささげました。「御父がわたしに望まれることを行うと自分と神に約束しました。そのような約束はそれまでに一度もしたことはありません。そして生活を永久に変える方法について、神殿の中で答えを受けたのです。」

フォヌアはニュージーランドで仕事に就く代わりに、トンガにとどまり、より良い仕事を探す決心をしました。その間、神殿で奉仕するよう召されました。忠実に召しを果たしていると、「義にかなった選択に対して主から祝福を受けました」とフォヌアは語ります。間もなく建物の清掃の大きな契約を取ることができました。「途方もなく大きな祝福です。家族と一緒にトンガにとどまり、家族の世話をし、神殿で奉仕することができました。」

わたしが持っているもの、受けている祝福はすべて、主の僕であることで授かったものです。神殿で過ごしたあのひとときは決して忘れません。わたしの

子供たちさえ、祝福を受け続けています。以前は教会員に度々迷惑をかけましたが、今は変わりました。教会に出席しています。今では家庭が幸せにあふれています。すべてが主のおかげです。」

### 犠牲は祝福をもたらす

ベアー・タンギタウ・タウフォオウ兄弟にとって、忠実な教会員でいることは肉体的に大きな犠牲を伴いました。19歳で教会に入ったとき、フォア島に住んでいました。ハアパイ諸島の中でも外側にある島の一つです。最初に受けた召しの一つは青少年の指導者でした。ほかの指導者と同様、隣の島にあるバンガイの町で開かれる集会にしばしば出席する必要がありました。そこへ行くには、島の端まで11キロの道を歩かなくてはなりません。それから引き潮の時を待ち、潮の流れがあまり強くないころあいを見計らって、浅瀬の中を隣の島まで歩くのです。片道でほぼ丸1日かかり、家へ帰るのに一晩待たなくてはならないこともありました。

「集会に出るのは大変でした」とベアーは述べています。「でも気落ちすることはありませんでした。むしろ証を強めてくれました。」

ベアーは少年のころ、教会が嫌いでした。村人の間に偽りの話が広まっていたからです。その後、家族が教会員と親しくなりました。教会員の模範が家族の心を和らげてくれました。姉がバプテスマを受け、1年後にベアーが教会に入り、間もなく勤勉に奉仕をするようになりました。

数年後、所属の地域が大きく発展し、ステークになる可能性が出てきました。バンガイでの集会の後、ベアーとほかの会員たちは家へ戻らなくてはなりません。ところが、地方部長は翌朝の集会に再び出席するよう求めました。しかも時間厳守です。時間に間に合うように往復するには、道中のほとんどを走らなくてはなりませんでした。



「疲れ切って死にそうでした。ステーキを作れるように断食してくださいと地方部会長から言われていたからです。それでも何とか間に合いました。難しい問題があっても、遅れずに集会に出席することの大切さを学びました。この後間もなくビショップに召されましたが、その召しを受けたのは、奉仕に従うために進んで犠牲を払ったからだと思います。また、断食が大きな変化をもたらしたことも信じています。程なくハワード・W・ハンター大管長（1907 - 1995年）が来て、ステーキを組織しました。」

しかし、ベアにとって最大のチャレンジは恐らく神殿へ入って結び固めを受けることだったと言えるでしょう。ベアとガールフレンドは結婚の決意をしていました。そして二人とも神殿結婚を望みました。しかし、当時最も近い神殿はニュージーランドにあり、高額な旅費がかかりました。

「丸1年間、わたしたちは神殿へ行く方法を見つけるために、毎週火曜日に一緒に断食しました。ガールフレンドはまだ北の島に住んでおり、わたしはハアパイ島にいました。難しい状況でした。ところが、二人のビジネスマンがわたしたちの話聞き、助けたいと感じました。実際に、旅費を払ってくれたのです。ほんとうに神殿結婚を望むなら、その道を備えようと言ってくれました。わたしには財産もなく、仕事すらなかったので、返済することはできませんでした。でも、彼らは何も求めませんでした。とてつもない祝福でした。」

### 福音に従う生活の祝福

このトンガの聖徒たちは次のようなことを学んできました。タロイモとヤシの木が、世話をしてくれる人に食物をもたらすように、主は御自身に仕える人を祝福されます。また、波が絶えずトンガの海岸に打ち寄せるように、主は絶えずこの会員たちの生活を見守ってください。悔い改めや什分の一を通して、あるいは日々の務めを果たすことによって、主に仕えるために献身するときに、聖徒たちは平安と慰め、幸福を見いだしてきました。そして、同じ決意をする人は皆、そのような祝福を得られると、彼らは証しています（モーサヤ2：24, 41；教義と聖約130：20 - 21参照）。■

### 悔い改めの祝福

シオネ・フィナウ兄弟は苦い経験を通して「幸福に」(2ニーファイ5：27)暮らす力を身に付けました。トンガで生まれ、ハワイで育ったシオネは、物事を自分で決められる年ごろ

になると、教会へ行くのをやめてしまいました。問題の一端は禁じられた道へと誘った悪友たちでした。間もなくシオネはあまりにも多くのトラブルに巻き込まれ、トンガへ帰らざるを得なくなりました。

「そのときから生活が変わりました」とシオネは述べています。「信仰が強く、教会で活発なおばと一緒に住むことになりました。一緒に教会へ行くようになり、地元のヤングシングルアダルトたちと仲良くなりました。

彼らは違う種類の幸福を示してくれました。福音を通して得られる清らかな幸福です。インスティテュートやそのほかの活動にも出席するようになり、自分の証を持てるようになりました。」

シオネは今、生活に大きな喜びを見いだしています。なぜでしょうか。「悔い改めの原則はこの世でほんとうの喜びを見いだせるものです」とシオネは説明します。「これまでに受けたすべての祝福を心からうれしく思っています。わたしたちが行っている業は天の御父の業であることを知っています。御父がわたしに行うよう望まれることや受ける召しは何であれ、最善の力を尽くして行いたいと思います。それが真実だと知っているからです。数年前にそう約束し、もう後戻りすることは決してありません。両方の面を見てきましたから、どちらが良いか分かっています。」

シオネ・フィナウ兄弟と妻のオア。





中央扶助協会会長  
ジュリー・B・ベック





# 扶助協会集会を活用して、 教え、霊的に鼓舞する

靈感を受けた扶助協会会長と神権指導者は、扶助協会集会を活用して、扶助協会の目的と業を達成します。

**扶** 助協会集会は、末日聖徒の女性が学び、救いの業に携わる助けになるということを、世界中の姉妹たちが認めるようになっていきます。

フィリピンでセブ神殿が奉献された後、地域会長会は会員を神殿参入に備えさせたいと考えていました。扶助協会の指導者は地域会長会を支援したいと願い、ビショップと様々なアイデアを話し合った結果、神殿参入の準備や、慎み深い服装、また什分の一を納める祝福について教えるために、扶助協会の特別集会を開きました。

メキシコシティーでは、暴風雨の際、よく洪水が起きます。そこで扶助協会の指導者たちはプロジェクトを組織し、姉妹たちや家族がいざというときに直ちに避難できるよう備えをさせました。別のワードでは、夫を亡くした20人の姉妹たちを助け強めるために、指導者が扶助協会集会を開く手はずを整えました。

アメリカ合衆国カリフォルニア州では、ある扶助協会会長が、継続していた子育てクラスを活用して、若い母親たちを強め、教えました。現在では、スペイン

語での子育てクラスも始まっています。

ロシアのモスクワで、ある扶助協会の姉妹たちは基本的なホームメイキング技術を学ぶことにより、家族と家庭を強めることに焦点を当てたいと考えました。そこで、料理や裁縫、家庭をさらに美しく整えることなどを学ぶクラスを始めました。

2009年9月26日に開かれた中央扶助協会集会で、扶助協会集会に関する新しい方針が発表されました。各地の扶助協会の指導者たちがこの方針を取り入れた結果、姉妹たちは上に挙げた様々な経験をする事ができたのです。<sup>1</sup>

## ともに働く

扶助協会は世界で最も大きな女性の組織です。神権の指導の下に運営されるという点で、きわめて独特であり、それによって世界中の扶助協会が、あらゆる文化において機能しているのです。

どのビショップや支部会長も、自分のユニットに責任があります。どのユニットの扶助協会会長も、一人のビショップや支部会長を補佐するために召されています。どの神権指導者と扶

## 扶助協会の目的

**主** が設立された扶助協会の目的は、女性を永遠の命の祝福に備えることです。そのために、扶助協会は次の点で女性を助けます。

1. 信仰と個人の義を増し加える。
2. 家族と家庭を強める。
3. 困っている人々を見つけ出し、助ける。

扶助協会の目的が確実に達成されるようにすべての姉妹たちが役割を果たすとき、わたしたちは天使と交わり、驚くべき奇跡を経験するに違いありません。





### 扶助協会集会の発表の仕方

日曜日以外に開かれる個々の扶助協会集会は、それぞれの内容に応じて扶助協会の奉仕活動、クラス、プロジェクト、大会、ワークショップと呼ばれます。以下に、これらの集会の発表の仕方の例を挙げます。

- 「神殿参入に備えるための扶助協会のクラスにいらしてください。」
- 「今週木曜日に、姉妹全員を対象にした扶助協会集会が開かれます。内容は、家庭の夕べで『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を活用することについてです。」
- 「扶助協会では、ガーデニングについてワークショップを行います。」
- 「土曜日の午前中に、扶助協会の奉仕活動を行います。」

助協会会長会も、どこかほかのユニットや扶助協会の姉妹たちに対してではなく、自分たちの責任に対して靈感を受けるために任命され、祝福されました。その結果、チリ、香港、ガーナなど、どの地域の扶助協会もすべて、そこに属する姉妹たちが特に必要としている事柄を計画することができます。

以下は、二つのユニットの扶助協会会長がどのようにビショップと協力して働いたかを示す例です。

ユタ州プレザントグローブの扶助協会会長会は、扶助協会のクラスを計画する前に、ビショップとともにワードの目標について話し合いました。その後、扶助協会指導者はワードの目標に基づいて一つの集会を計画し、ワードの一人の姉妹に『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を家庭の夕べでどのように活用しているかを話してもらいました。また、ガーデニングのワークショップを数回開き、その中で、家庭菜園で収穫した作物の貯蔵法を学び合いました。会長会とビショップとの話し合いについて、扶助協会会長はどのように語っています。「わたしたちは、ビショップがわたしたちのために主に祈ってくれていることを知って、その愛を感じています。」

ユタ州リーハイのある扶助協会会長は、reliefsociety.lds.org から得た情報を活用し、6か月にわたって集会を持つことをビショップに提案しました。彼女はどのように語りました。「わたしは顧問と話し、扶助協会集会コーディネーターを訓練し、毎月のクラスを計画する際、扶助協会の目的に焦点を当てるように励ましました。コーディネーターと顧問は扶助協会委員会の委員と話し合ったとき、ワードの必要を満たすために扶助協会の目標をどのように活用できるかについて祈るよう依頼しました。委員会の姉妹たちは多くのアイデアを出してく

れました。その後、ビショップの意見を取り入れ、承認を得てから、計画を最終的に決定したのです。」

### 導きを求めて祈る

扶助協会の会長がひざまずき、自分たちが学ぶべきことを示してくださるよう天の御父に願い求めるなら、素晴らしい形で詳しい啓示が注がれるでしょう。ある扶助協会の会長はこのように語っています。「主は、一人一人の姉妹の気持ちと考えを御存じです。また、抱えている問題や心痛、喜びや悲しみも御存じです。そして、何が最も姉妹たちの助けになるかを、ほんとうに知っておられるのは主だけです。ですから、わたしたちの問題の解決策は、信仰を込めて、導きを求めて尋ね求めることです。」

扶助協会の目的は、扶助協会の指導者をはじめ、姉妹たちやその家族に、新たな力をもたらすことでしょう。扶助協会集会は、姉妹たちが自分たちの必要に合った方法で教えと導きを受ける場所となるでしょう。それが結局はワードや支部の必要を満たすことになるのです。■

### 注

1. ジュリー・B・ベック「扶助協会——神聖な業」『リアホナ』2009年11月号、110-114参照

扶助協会集会に関するさらに詳しい情報は、[www.reliefsociety.lds.org](http://www.reliefsociety.lds.org) [英語]を参照してください。





### 扶助協会集会に関する変更事項の要点

- それぞれの扶助協会集会の名前を扶助協会の目的と業に合わせたものにする。
- 扶助協会会長とビショップや支部会長との話し合いを奨励する。
- 姉妹たちが信仰と個人の義を増し加えることに焦点を当てる。
- 家族と家庭を強めることを強調する。
- 困っている人々を見つけ出して支援する働きを組織する機会を姉妹たちに与える。

### 扶助協会集会に関する方針の概要

- 扶助協会会長はすべての扶助協会集会を見守りますが、会長は第一顧問や第二顧問に補佐を頼んでもよいでしょう。
- ワードや支部の一人の姉妹を、扶助協会集会コーディネーターとして召すことができます。また彼女を補佐するために、扶助協会集会委員会を召すこともできます。

- その他の扶助協会集会は一般的に毎月1度行いますが、扶助協会会長会の提案により、もっと頻繁に、あるいはもっと間隔を置いて行うことができます。少なくとも四半期に1度の頻度で行うよう努力するべきです。日曜日や月曜の夕べには行いません。またすべての扶助協会集会に、扶助協会会長会の少なくとも一人が出席するべきです。
- 集会を計画する際、指導者は扶助協会の目的を達成するためのテーマを優先します。例えば、結婚と家族、ホームメイキング、賢明な生活と自立、慈善奉仕、神殿と家族歴史、福音を分かち合うこと、そしてビショップや支部会長が求めるその他のテーマを優先するのです。
- 集会は一つのテーマに的を絞ってもよいですし、複数のクラスや活動に分けることも可能です。一般的に、ワードかステークの会員が教師をします。
- これらの集会は、特に初等協会や若い女性で奉仕している姉妹や、日曜日の集会に参加できない姉妹たちにとって、日曜日に学ぶ事柄を補うものとして大きな価値を持つでしょう。
- 扶助協会の指導者は、財政と活動に関する教会の方針に従うべきです。

### ステーク扶助協会集会

**ス**テーク扶助協会会長会は、ステーク会長の承認を得て、年に1度か2度、ステーク内のすべての扶助協会の姉妹のために、ステーク扶助協会集会を計画し、開くことができます。このうち1度は、毎年開かれる中央扶助協会集会（今年は9月25日に開催される）の衛星放送に合わせて開いてもよいでしょう。

### ビショップや支部会長と話し合う

**扶**助協会集会を適切に活用することで、どのワードや支部でも扶助協会はその能力を増し、神権指導者と力を合わせて、さらに力強く働くことができるようになります。

- 扶助協会会長はビショップや支部会長と定期的に話し合い、これらの集会がどのように個人と家族を強めることができるかについて相談する必要があります。
- 扶助協会会長会は、ビショップや支部会長に扶助協会集会に関して提案し、承認を得ます。その際、姉妹たちの時間的制約、家族の状況、移動する距離と費用、安全性、ワードや支部の予算、その他の地元の状況などを考慮します。



## 一緒に祈っていただけませんか

「すぐに戻って来るよ。」そう言って、タイのホストファーザーは、玄関から出て行きました。少なくともわたしにはそう聞こえたように思えました。わたしのタイ語の理解力は、それほど粗末なものでした。

社会事業のボランティアをするためにタイに住み始めて4か月がたっていました。タイ語で基本的な会話はできましたが、学ぶべきことはまだまだたくさんありました。新しい区域に移ったばかりでしたが、新しいホストファミリーはわたしが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることをすでに知っていました。わたしはホストファミリーに自分の価値観を伝えるよう最善を尽くし、タイ語のモルモン書と『若人の強さのために』のパンフレットを渡しました。

ホストファーザーの帰りを待ちながら、わたしは居間の床に座って、タイ語の会話テキストを勉強し始めました。そのとき突然、ホストファーザーと一緒に祈ってくれるよう頼むべきだという強い気持ちがありました。それまでに

も同じような促しを感じたことはありませんでしたが、それほど強く心に響いたのは初めてでした。タイに滞在中、様々な機会に福音について話してきましたが、だれかに一緒に祈るように頼んだことは一度もありませんでした。

ホストファーザーとは良い関係を築いていました。わたしは彼のことを「お父さん」と呼んでいましたし、彼もそう呼ばれるのを気に入っているようでした。最初はわくわくしましたが、次第に緊張してきました。「断られたらどうしよう。彼の家族と過ごす残りの滞在期間に、わたしのことで気まずい思いをさせることになりはしないだろうか。互いの関係を台なしにしてしまわないだろうか」と、あれこれ心配になりました。さらに悪いことに、わたしはタイ語でどのように祈ればいいのか知りませんでした。しかも、タイ語でホストファーザーと一緒に祈ってくれるように頼めるほどの会話力もありませんでした。そこでわたしは天の御父に助けを願い求めました。

間もなく表の門が閉じる大きな音が聞こえました。ホストファーザーは家に入って来ると、わたしに声をかけてくれ、「わたしはもう寝るよ」と言いました。この機会を逃してはいけないと悟り、話しかけようとしたときのことです。突然、何を言うべきか、またそれをタイ語でどのように言うべきかが分かったのです。

「お父さん、ぼくはアメリカでは家族と一緒に祈っていたのですが、今はそれができなくて寂しく思っています。一緒に祈っていただけませんか。」すると思いがけない言葉が返ってきました。

「ジョン、もちろんだよ。祈り方を教えておくれ。」彼はそう答えたのです。

そこでわたしはタイ語で祈りについて説明しましたが、英語で祈ることにしました。神がわたしの祈りを聞いてくださっていること、そして、ホストファーザーが御霊を感じたことが分かりました。祈りの最後に彼が「アーメン」と言ってくれたとき、わたしの目に涙があふれました。

そのとき心にわき起こった喜びと、ホストファーザーと天の御父に対して感じた愛を言葉で表すことができません。その経験から自信を得たわたしは、人に福音を伝える数多くの機会がありました。ホストファミリーを近くの支部に誘いましたが、残念ながらそれは受け入れてもらえませんでした。でも、わたしが彼らと分かち合った知識は、遅かれ早かれ彼らの益となると知っています。

自分の働きの結果を、必ずしもこの世で見るとは限りません。しかし、福音の種を植えることによって、少なくとも一人の人生を祝福することができることを学びました。それは自分自身の人生です。そして、主の時にかなって、わたしたちがまいた種はほかの人々の人生をも祝福するのです。■

ジョンサン・H・ボーデン (アメリカ合衆国ユタ州)

**断**られたら  
どうしよう。  
互いの関係を  
台なしにして  
しまわないだろうか。



## イナキは 家に帰って来られる でしょうか

■ 男イナキはわずか妊娠 24 週  
■ 目に入ったところで、緊急の帝王切開手術で生まれました。体重はたった 560g、身長は 31cm しかありませんでした。

息子は超未熟児として生まれたため、助かる見込みはほとんどありませんでした。担当医はわたしたちが息子を手助けするために医師の治療をほんとうに望むかどうか尋ねました。いずれは迎えることになる息子の死を先に延ばすだけだということです。わたしは息子に命があるかぎり、チャンスを与えるべきだと答えました。そして神に奇跡を願い求めました。

イナキは最初の夜、健康を回復するように祝福を受けました。その後 4 か月もの長い間、腸に穴が開いたり、肺がつぶれたり、脳内出血をしたりと、様々な症状に苦しみました。そのような状況だったため、病院内で息子に命名と幼児の祝福の儀式を施す許可を得ました。

息子が治療を受けている間に、わたしたちは同じような問題を抱えている両親と会い、助け合ったり慰め合ったりするようになりました。また、出会う人ごとに福音に対する自分たちの証あかしをできるかぎり伝えるようにしました。

ある日、息子に最後のお別れを言い病院に来るようにという電話を受けました。息子の命は夕方までもたないだろうということでした。病院に着いたわたしたちは、息子を抱いて話しかけました。衰弱した息子の姿を見たときの心痛は言い表せないほどでした。そのとき初めて、夫とわたしは、神の子供である息子にとって自分



息子に最後の  
お別れを言い  
病院に来るように  
という電話を受けました。  
息子の命は夕方まで  
もたないだろう  
ということでした。

たちはほんのつかの間の保護者にすぎないことに気づきました。息子を手助けするためにわたしたちにできることはただ、天の御父の御心みこころのままになるよう祈り求めることだけでした。イナキはその日の午後を何とかもちこたえ、その後の数日を乗り越えたことを感謝しています。

イナキが新生児集中治療室に入っていた 4 か月の間、わたしたちは幾度となく神権の力が現れるのを見ました。医師団や神権者の手を通して天の御父が息子を祝福してくださり、ついに息子は癒いやされたのです。その回復ぶりは、医師たちを驚かせました。

2008 年 10 月、イナキは家に帰って来ました。

わたしたち家族はこの経験を通して多くのことを学びました。天の御父はわたしたちを愛しておられ、堪え忍ぶべき試練の中にあっても奇跡を起

こされ、神の聖徒を守ってくださることを知っています。永遠の家族の目的や幸福の計画の中で家族が果たす重要な役割について、また天の御父が御自身の子供たちにどれほど寛大であられるかについて、わたしたちは以前よりもっとよく理解できるようになりました。

今わたしたち家族は以前とは違います。もっと一致しもっと周りの人の苦しみや必要に気づくようになりました。すべて、息子と、彼がわたしたちの生活にもたらしてくれた奇跡のおかげです。■

パウリナ・デル・ピラール・セラダ・ムノス  
(チリ、サンティアゴ)

## 神はわたしを祝福してくださるでしょう

サンサルバドル・エルサルバドル伝道部で奉仕していたときのことです。伝道部会長から、長年宣教師による伝道が行われていなかった地域への転任を告げられました。その支部の指導者たちは、宣教師が再び派遣されるように祈って断食してきただけでなく、その日のために備えをしてきました。

わたしが到着したとき、支部のすべての家族には、宣教師を受け入れる備えのできた友人がいました。ある会員は、アナ・オビエドという婦人を紹介してくれました。彼女は、人通りの多い街角で果物と自家製の食物を売っていました。彼女がいつもの場所で食物を売っていたある土曜の朝、わたしたちは彼女に、自宅を訪問してイエス・キリストについてのメッセージを紹介してもよいか尋ねました。彼女は了承してくれました。

その夜、家に着くとアナと4人の子供たちはわたしたちを待っていてくれました。わたしたちは自己紹介してから福音を教え始めました。すると、安息日を聖く保つことの祝福について教えるようにという導きを感じました。什分の一と預言者マラキによってなされた約束についてもこの家族に教えました(マラキ3:10-12参照)。

するとアナは、明日の日曜に売る食物をいつものようにすでに準備してしまったことを話しました。そこでわたしたちは祈りをささげ、天の御父にこのつましい家族を祝福してくださるよう懇願しました。家族は母親の収入を必要としていたからです。

アナは、明日の日曜に売る食物をいつものようにすでに準備してしまったことを話しました。

次の日、驚いたことにアナは子供たちを連れて教会にやって来ました。わたしたちは彼らを歓迎しながら、販売用に準備した食物はどうしたのか尋ねました。

「長老たち、昨晚わたしは神の約束についてじっくりと考えてみました。神はわたしを祝福してくださるでしょう。」そして、こう付け加えました。「長老たち、什分の一はどこに納めたらいいですか。」

わたしたちは、彼女が信仰を行動で示したことに感動しました。そして、主がこの家族へのわたしたちの祈りをかなえてくださるよう祈りました。

次の日の晩、彼女の家を再び訪ねました。彼女は、その日に神が大いに祝福してくださったと感謝の涙を流していました。彼女が言うには、長年その街角で月曜から日曜の午前8時

から午後6時まで食物を売ってきて、いつも売れ残りがあったそうです。しかしその月曜日は、午後1時まですべての食物が売り切れたとのことでした。

天の御父はわたしたちの祈りにこたえてくださいました。主は引き続きアナを祝福され、もう安息日に食物を売る必要がなくなりました。彼女の子供たちは間もなくバプテスマを受けましたが、アナのご主人は彼女のバプテスマを承諾してくれませんでした。しかし、彼女は福音に忠実であり続け、亡くなるその日まで教会に出席し続けたのです。

心を尽くして、主の戒めに従うとき、天の御父が確かに約束を守ってくださることを、わたしは知っています。■

フリオ・セザール・メルロス  
(アメリカ合衆国テキサス州)





## ジムにはわたしの助けが必要でした

ソルトレーク神殿で結婚してすぐ、ジムとわたしはオレゴン州の海岸沿いにある小さな家を借りて生活を始めました。ジムは測量技師として州から業務を請け負っていました。オレゴン州の海岸線を調べ、地図を修正するという仕事です。毎朝、ジムは別の技師とともに前日の最後の地点から出発しました。海岸まで深く茂った森が迫っていたので、作業は困難を伴うものでした。

ある晩、夕食の支度を始めようかというころ、食事の準備をしている場合ではないという強い印象を受けました。その日、ジムは夕食には帰って来ない

ことになっていました。また別の考えが浮かびました。ジムに大変なことが起こっていて、わたしの助けを必要としていると感じたのです。

声は聞こえませんでした。語りかけられたのと同じくらいはっきりとした思いでした。夫を助けなければなりません。でもどこにいますか。海岸線に沿って毎日移動しながら仕事をするジムがその日にどこにいますか見当もつきませんでした。突き動かされるように車に乗り、ハイウェイの入り口に向かって進みました。しかし、一体、どちらの方向に行けばよいのでしょうか。一瞬ためらった後、わたし

は南に向かうべきだと感じました。ハイウェイを走りながら出口を幾つも通り過ぎました。そのうちのどれかを出ていけばジムのところに行けたかもしれません。

ハイウェイを下りて1車線しかない道路を進むようにと感じました。雨が降っています。1、2マイルほど進むと道は細くなり、ぬかるんできました。この道ではないと思い、Uターンして戻ることになりました。辺りは暗くなり始めていて「どうしてこんな道に入ってしまったんだろう」と思いました。

しかしハイウェイに向けてハンドルを切るやいなや、疲労困憊した二人の技師の姿が目に入りました。泥まみれの彼らを車に乗せてくれる人など、ほかにだれもいなかったことでしょうか。ジムと同僚の話によると、運転していたトラックが泥にはまってしまい、何度も抜け出そうとしましたが結局はトラックを残し、草や低木がびっしりと生い茂る森をハイウェイ目指して歩いていたのだそうです。

「どうしてこの場所が分かったの」と二人は驚いていましたが、見つけてもらったことを喜んでいました。わたしも、自分が御霊に導かれた次第を話しながら同じように喜びました。

その晩、ジムとひざまずいて祈り、聖霊が与えてくださる影響力に感謝しました。この影響力は、助けを求める夫の祈りの答えとしてわたしに与えられたのです。■

ジーン・パートリッジ  
(アメリカ合衆国ユタ州)

ハイウェイを下りて  
1車線しかない道路を進むようにと感じました。  
雨が降っています。  
1、2マイルほど進むと道は細くなり、ぬかるんできました。



十二使徒定員会  
L・トム・ベリー長老



# 帰還宣教師の 皆さんへ

今必要なのは、再び仕える用意のできた  
帰還宣教師から成る王国の軍勢です。

**た**くさんの帰還宣教師と話して学んだことがあります。それは、伝道地を離れ普通の教会員の生活に戻っていくのは、時々調整が難しいということです。幾つかの提案をしたいと思います。

## 頻繁な、首尾一貫した、力強い祈り

わたしの宣教師時代について残っている最も強烈な思い出の一つは、定期的な祈りを実行することによって、どんなに主に近くなれたかということです。その当時、伝道本部はソルトレーク・シティーのステートストリート沿いがありました。それは大変大きな家で、宣教師訓練センターとして改装されたものでした。一部屋にたぶんベッドが10台も入るような大きな共同寝室が幾つもありました。チェックインしたのは日曜日の夜でした。

伝道に赴く前の週は興奮することばかりでした。パーティーや歓送会がたくさん開かれました。残念ながら、わたしは十分に休息を取れず、伝道本部で受けるはずの訓練に対して

も備えができていませんでした。伝道本部での最初の晩が終わるころ、わたしは疲れ果てていました。ほかの宣教師が寝支度をするのを待っている間、わたしは自分のベッドの上に横になっていて、間もなく寝入ってしまった。しかし、周りの気配を感じて、わたしは眠りから呼び戻されました。目が覚めてきたとき、だれかが祈っている言葉が聞こえてきました。目を開けてみて非常に驚きました。わたしの部屋の長老たちが全員わたしのベッドの周りにひざまずいて、一日を終えるためのお祈りをしていました。わたしはすぐに目を閉じ、眠っているふりをしました。あまりにも恥ずかしかったので、ベッドから出て祈りに加わる気にはなれませんでした。宣教師としての祈りにまつわる最初の経験は恥ずかしいものでしたが、それはまた、導きを得るためしばしば主に呼び求めた、すばらしい2年間の始まりでもありました。

伝道期間中ずっと、毎朝新しい一日を始めるに当たって、同僚と一緒に

祈りました。毎晩、寝る前にも同じようにしました。勉強する前に祈りましたし、アパートを出て伝道活動をしに行くときにも祈りました。そしてもちろん、伝道活動を正しく進めるための導きを必要としたとき、特別な祈りをささげました。天の御父に度々祈りをささげることによって、召された業を推し進めるための力と勇気を与えられたのです。答えは、時には驚くほど直接的に、しかもはっきりとした方法で与えられました。わたしたちが一日の助けを求めて主に請い求めれば求めるほど、聖なる御霊の導きは高まったように感じました。

伝道後のわたしの生活を振り返ってみると、伝道地で経験したのと同じように自らを主に近く保つことができた時期があったことに気づきます。また、いつの間にかこの世的なものが忍び込んできて、自分の祈りと行いがあまり一致せず、忠実でなかった時期もありました。

今は、ちょっとした自己評価をする良い機会ではないでしょうか。つまり、わたしたちが伝道地で天の御父との間に築いていたのと同じ関係を、今でも持っているかどうかを知るために自分自身を吟味してみるのです。もし、この世的なものがわたしたちから祈りを遠ざけているとすれば、わたしたちは偉大で霊的な力を失っていることとなります。もっと祈りの頻度を多くし、首尾一貫した力強い祈りを通して伝道の精神に再び火をつける時は、恐らく今なのです。





## 個人と同僚の福音の学習

宣教師としての懐かしい思い出の二つ目は、毎日聖文学習を行ったことです。福音を学ぶための聖文学習計画に従うように自己訓練したことは、実り多いすばらしい経験でした。聖文の教えの知識はしばしば、個人の学習を通して輝かしい方法で明らかにされました。宣教師として、わたしが驚嘆したことを思い出します。それは、主が、地上にいる主の子供たちのためにいかに完全な計画を用意しておられたかということです。また、すべての神権時代に、子供たちに対する御心みこころを記録するよう、いかに主の預言者の心に靈感を与えてこられたかということです。主の言葉は常にはっきりとしており、直接的で、主の律法と主の道に従うことによって得られる祝福を明らかにしてくれました。

さらにわたしたちは毎日、1時間かそれ以上を使って、同僚と一緒に学習したものです。二人の目で王国の教義を調べることは、わたしたちの理解を大いに増すようでした。わたしたちは一緒に読み、次にお互いの感じたことを分かち合いました。

わたしたちの心は、個人および同僚との学習を行うにつれて研ぎ澄まされてきました。この学習により、わたしたちは同僚としてもっと親しくなり、王国の教義に関する理解は増したのです。

伝道地を後にすると、もはや学習習慣を身に付けるのを助けてくれる同僚はいなくなります。しかし、これは学習をやめるべきだという意味ではありません。家に帰ったとき、毎日家族で聖文学習を行うのは何とすばらしいことでしょうか。家を離れて住むことになったら、ルームメイトや友達を招いて一緒に学習

インスティテュートに出席することによって、王国の教義を心の中に明確に保つことができるでしょう。そうすれば、この世の絶え間ない影響から守られるでしょう。

してはどうでしょうか。定期的な勉強会の時間を持つことによって、またインスティテュートに出席することによって、王国の教義を心の中に明確に保つことができるでしょう。そうすれば、この世の絶え間ない影響から守られるでしょう。もちろん、結婚するとき、福音の教えとともに学び、分かち合える永遠はんりょの伴侶を持つことになります。

聖文はいつもそこにあって、人生の目的に関する理解を深めてくれます。また、人生をもっと満ち足りた、実り多いものとするために行うべきことを教えてくれます。どうか、個人や伴侶との定期的な聖文学習を続けて行ってください。

## 福音を教える喜び

人生で福音をまったく教えられなかった人に福音を教えるときに感じる喜びを覚えているでしょうか。主の律法と主に従うことから得られ



る祝福を教えるときに経験する心の高まりを覚えているでしょうか。伝道地で最初のバプテスマの喜びを、忘れたことがあるでしょうか。

わたしが宣教師だったころ、教会堂にはバプテスマフォントが備えつけられていませんでした。わたしの最初のバプテスマはアメリカ合州国オハイオ州のシオト川で行われました。涼しい秋の日で、水は空気よりも冷たく感じられました。求道者に後からついて来るように励ましながら、あの冷たい川の中に足を踏み入れたときの衝撃をよく覚えています。しかし、空気と水の冷たさは、バプテスマの儀式を執行するとすぐに消えてしまったのです。バプテスマの水から上がって来たその人の喜びに輝く顔を見たときの印象を、わたしは決して忘れないでしょう。



専任宣教師の名札を付けることはないかもしれませんが、福音の光を見つけようともがいている世の人々にそれをもたらすために、同じ望みと決意を持つことができるのです。

福音を教えバプテスマを施す機会は、専任宣教師の名札を付けた人々だけに限られているわけではありません。この世の日常的な活動に戻ると伝道活動の熱意が消えてしまうのはなぜでしょうか。

人類の歴史上、この地上に住む天の御父の子供たちに福音を教えるために、わたしたちがこれ以上よく備えられた時はかつてありませんでした。しかも、かつてなかったほど、<sup>こんにち</sup>今日人々は福音をもっと必要としているように思われるのです。世の中では信仰が弱まっているのが分かります。人々はこの世的なものをますます愛するようになってきており、道徳的価値観は低下しています。その両方が心痛と絶望の種となるのです。今必要なのは、再び仕える用意のできた帰還宣教師から成る王国の軍勢です。専任宣教師の名札を付けることはないかもしれませんが、福音の光を見つけようともがいている世の人々にそれをもたらすために、同じ望みと決意を持つことができるのです。

帰還宣教師の皆さんに、再び自分自身をささげ、伝道活動の望みと精神でもう一度満たされるようにと、お招きします。天の御父の僕としての外見を保ち、僕となり、僕として振る舞ってくださるようお願いいたします。皆さんが福音を<sup>の</sup>宣べ伝える決意を新たにできるよう祈っています。主がわたしたち全員に行うよう召されたこの偉大な業に、さらに雄々しく従事できるようになるためです。皆さんに約束したいと思います。もし、かつて専任宣教師として持っていた熱意をもって力強く進み続けるならば、大いなる祝福が皆さんを待ち受けています。

新たな熱意と決心とをもって前進しましょう。皆さんの模範によって、この混乱した世の中に福音の光を輝かせてください。わたしたちが携わっているのは、主の業です。神は生きておられます。イエスはキリストです。わたしたちは主の教会に<sup>あかし</sup>属しています。これが、皆さんへのわたしの証です。■

2001年10月の総大会における説教から。全文〔英語〕は [www.conference.lds.org](http://www.conference.lds.org) に掲載されています。





# わたしたちが 喜びを得るために

アンドレア・ジョーンズ

**伝**道を始めすぐに、わたしの伝道は予想したよりもずっと困難になるだろうということが分かりました。考えもしなかった試練に幾つも遭いました。努めて前向きでいようとしたのですが、努力が実を結ばないことが度々あり、落胆だけが残りました。ありがたいことに、ゾーン大会の度にわたしは励ましを得ていました。ゾーン大会ではいつも最後あかしに証会がありました。

特に記憶に残っているゾーン大会があります。そのときは、宣教師が一人ずつ立って伝道の喜びについて語りました。集会が進むにつれて、わたしは不安になりました。伝道に出て1年が過ぎていましたが、ほかの宣教師たちが話しているような喜びを感じたことは一度もありませんでした。ゾーン大会を終えて帰る途中、わたしの心は重く、混乱して、伝道をしている意味さえ分からなくなりました。何がいけないのでしょうか。どうして皆のように喜びを感じられないのでしょうか。その夜、わたしは心の悩みを天の御父に打ち明け、喜びを感じるようになるにはどうしたらよいでしょうかと尋ねました。

数週間後、ステーキ大会に出席していると、伝道部会長の話を通して祈りの答えを受けました。伝道部会長は何百人もの聴衆に向かって話していましたが、わたしは自分に直接語りかけられているように感じました。伝道部会長は、わたしたち一人一人が毎日感じることのできる、キリ

伝道を  
困難にしている  
一つ一つの事柄が、  
わたしを喜びから  
遠ざけている  
ようでした。  
でも、それは  
仕方ないこと  
なのでしょう。

わたしたちは  
救い主の  
あがな  
贖いの意味を  
理解することによって  
喜びを感じることも  
できます。

ストの贖いあがなの喜びについて話しました。困難で不安定なときでも、わたしたちは救い主の贖いの意味を理解することによって喜びを感じることができると言いました。

それはわたしのために与えられた言葉だと分かりました。天の御父がわたしの祈りにこたえてくださったのです。これからも恐らく、伝道は思っていたようには進まないでしょう。でも、救い主はわたしを愛しておられ、わたしの罪を贖ってくださいました。味わったことがないと思っていた喜びは、わたしの周りにあふれていました。わたしがそれに対して心を開いていなかっただけなのです。

試練は続きました。でもこの経験が教えてくれたように、救い主の贖いの力に心を開くことを選び、その力について人々に証することによって、わたしは喜びを感じることができのです。

伝道を通じてわたしが理解したように、状況や環境はわたしたちが喜びを感じる能力に対して影響を及ぼし続けることはありません。反対に、真の喜びは「[わたしたちが] 喜びを得るために」(2 ニーファイ 2:25) 現在と来世の生涯を作ってください方々である、天の御父とその御子イエス・キリストに従い、御二方を信じることによってもたらされるのです。■



# そこが知りたい

別の教会に属している友人に「一緒に教会へ行きませんか」と誘うことがよくあります。そのような友人から逆に彼らの教会に誘われたら、**ついて行ってもいいでしょうか。**

**友**人の通う別の教会に行くために、自分の教会の集会を決して休むべきではありませんが、折を見て、どのような礼拝行事が行われているかを友人たちと一緒に見に行くことはできるでしょう。ほかの宗教について、また、自分たちの教会との違いについて知る機会になるからです。彼

らの教会で行われる礼拝行事を尊重するように心がけてください。わたしたちの教会で行われる礼拝行事を尊重してもらいたいのもまったく同じです。

友人の信じている宗教について学ぶことで、恐らく、もっと率直に霊的なテーマについて話し合えるようになるでしょう。友人が何を大切にしているかを理解すれば、自分は何を大切にしているかを説明するのが容易になるでしょう。彼らについて、また、彼らの信じている事柄について学ぼうとするこちらの努力を評価してもらえましょう。

その際、あなたが不快と感じる

ことや、あなたの信念や標準がぐらつくようなことをしないように注意してください。行く前に、御霊がともにあるように祈ってください。そのうえで、ほかの宗教に対する知識を広げると同時に、自分自身の宗教に対する理解を深める機会を楽しんでください。■

**わたしは全世界の人々に福音の話ができたらいのにと思います。**

**でも、そうしようとすると、無力感に襲われます。**

**自分の信じていることを分かち合えるようになるにはどうすればいいのでしょうか。**

**証**を分かち合う方法は人によって様々です。周囲の人々に簡単に証を分かち合える人もいます。証を美しい文章で書ける人もいます。また音楽や美術を通して信仰を分かち合える人もいます。模範、すなわちわたしたちの生き方を通して証を分かち合うこともできます。

分かち合うことによって、証は成長します。また、そうすることで自分自身だけでなく、自分の証そのものに自信を持つことができます。自分の信じていることをほかの人々と分かち合う能力をさらに伸ばすことができるように、助けと力を求めて祈ってください。主は、あなたが口を開けば、あなたの口は満たされると約束しておられます(教義と聖約 33:8 参照)。







人前で話すのが怖い場合には、  
証を書き、声に出して  
自分に読み聞かせてみてください。  
そうすれば証を分かち合うことに対する  
抵抗感が減ります。

人前で話すのが怖い場合には、証を書き、声に出して自分に読み聞かせてみてください。そうすれば証を分かち合うことに対する抵抗感が減ります。家族や親しい友人と証を分かち合うことから始めてください。主に頼り、少しずつ段階を踏んでいけば、やがて集会の中で、また、だれかと会っているときに、もっと楽な気持ちで証ができるようになります。

人からどう思われるかなどと心配しないことです。聞き手に備えができていれば、証をすることで聖霊を招き、聖霊はその人の心を動かすことができになります。証は自分自身のものであり、主にとって、また、自分自身にとって特別なものだとすることを忘れないでください。

トーマス・S・モンソン大管長はこう言っています。「皆さんには証があります。それを分かち合ってください……。皆さんの証が及ぼす影響力を過小評価してはなりません。」(『リアホナ』2005年5月号, 115; “A Code to Live By,” *New Era*, 2005年9月号, 8) ■

日曜学校のクラスで

## ふまじめな態度を 執る人たちがいます。

そのことについて教師やビショップに話したことがあります。  
ほかにどんなことができますか。

**ま**ず、クラスに集うほかの生徒に模範を示すことです。教師が準備してくれたことに関心を示してください。学びたい人がいるのだと分れば、今、教師が教えていることは大切なのだということに周囲の人たちも気づくかもしれません。

生徒たちは話し合いに巻き込まれると、もっと注意を向けるようになります。ですからあなた自身がレッスンに参加し、話し合いを促し、深く考えさせるような質問をしたり、そのような質問に答えたりすることで、周囲の人々を巻き込んでください。

平安と靈感を与える聖霊の働

きかけによって、クラスの参加者全員がレッスンから何かを学ぶことができるように祈ってください。

最後に、クラスをかき回す人がいても、その人を愛し赦してください。確かに、そのような行動は気に入らないかもしれませんが、しかし、あなたがいつも腹を立て、彼らを軽蔑していることを態度で示したら、恐らく彼らの行動は変わらないでしょう。そうする代わりに彼らのために祈り、仕えてください。あなたから気にかけていることを知り、しかもあなたが熱心にレッスンに参加していることが分かれば、あなたの熱意は周囲に広がることでしょう。■

模範を示してください。  
教師が準備したことに  
関心を示してください。  
質問をし、  
質問に答えることで、  
レッスンに参加し、  
周囲の人々を巻き込んで  
ください。



あなたの質問を電子メールでお送りください。あて先は [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) です。件名欄には「To the Point」と書いてください。

# 真理は勝つ

伝道に出るべきでしょうか。わたしが受けた答えは揺るぎないものでした。

オリバー・メイオール

**わ**たしはイングランドに住む活発な末日聖徒の家庭で育ちました。10人兄弟の8番目です。信仰篤い両親はわたしたちに福音を教え、模範を示してくれました。しかしわたしは、14歳くらいのときから、早朝セミナーに通い、様々なクラスやファイヤサイドに足を運び、若人の活動に参加するのが難しくなっていました。当時、友人はほとんどが教会員ではなく、わたしとはまったく異なる価値観の中で育った人たちでした。

わたしは悪い決定を下すようになりました。友人たちのように、同じように楽しみたいという気持ちがとても強かったからです。15歳のころには、もうまったく教会には行かなくなっていました。時間がたつにつれて、わたしの生活はどんどんこの世的になっていきました。

しかし、その反面、心の奥底で何かを感じるようになりました。心の中に、人生の目的や人の行く末に関する

たくさんの疑問が生じました。一度経験し、大好きだと思っていた世界が、とても暗く、冷たく、寂しい場所になっていました。この世が与えるものでは心を十分に満たすことができませんでした。住み慣れた町を離れ、どこかへ行くべきではないかと感じました。自分の人生には、何かほかにやらなければならないことがあるのではないかと感じたのです。

何週間もこのように感じ考えた挙げ句、わたしは助けを祈り求めることにしました。祈るのは、ほんとうに久しぶりでした。家族が皆、眠ってしまう夜まで待つことにしました。祈った後で、考え、耳を傾けましたが、何も起こりませんでした。何かを感じるまでと思ってこのようなことを何週間も続けました。神はすぐには答えを与えてくださりませんでした。福音の中で育ったにもかかわらず、福音の真の価値に気づいて感謝することが一度もなかったからでしょう。

ある夜のこと、わたしは祈りの方法

**わたしはヒース原野にある丘の一面を選びました。**

**そこだと落ち着いて祈ることができると思ったからです。**

**わたしは弁当、聖典、**

**そして日記を持って出かけました。**

**心の願いを天の御父に告げるために、丘の頂上まで登りました。**

を変えました。祈りの答えを要求してばかりで、祈れば主は即座にこたえてくださるはずだと思っただけではなく、主が答えを与えてくださったなら、宣教師になって主に仕えようと約束をしたのです。モルモン書、ジョセフ・スミス、そして教会の教えが真実かどうかを知るために、生まれて初めて祈りました。その結果、強烈で平安に満ちた何かを感じ、涙が流れました。





わたしはビショップに会いに行きました。そのとき偶然いちばん上の兄がビショップを務めていました。わたしは伝道に出たいと頼みました。不安はありましたが、主が約束を守られた以上、自分も主と交わした約束を守らなければならないことを知っていました。自分の経験を話したとき、ビショップの目から涙がこぼれ落ちました。

それからしばらくしてわたしはケリーとデートするようになりました。教会員ではない友人でした。彼女に伝道に出る計画について話しました。ケリーはわたしが変わったことに気づき、その理由を知りたいと思いました。それがきっかけとなって、彼女は宣教師から福音を学び、教会員となりました。わたしは彼女にバプテスマを施し、確認の儀式を行う機会にあずかりました。ケリーを改宗へと導いたその時点で、もう自分は伝道を果たし終えたかもしれないと思いました。伝道に出るべきかどうか悩みました。そこで、ケリーを残して伝道に出ることが正しいことなのかを知るために祈ることにしました。

わたしは祈る場所として、サドルワース・ドーブストーンズと呼ばれるヒース原野にある丘の一面を選びました。そこだと落ち着いて祈ることができると思ったからです。わたしは弁当、聖典、そして日記を持って出かけました。心の願いを天の御父に告げるために、丘の頂上まで登りました。祈りながら、答えが得られるよう熱心に耳を傾けました。恐らく胸の内に平安な気持ち、あるいは燃えるような思いがわき上がってくるだろうと思いました。しかし、何も感じませんでした。

帰宅する途中、地面に「真理は勝つ」という文字になるように石が並べられていました。「不思議だな」と思いましたが、ただそれだけでした。しかし、

**帰宅する途中、  
地面に石が並べられてあり、  
伝道の歴史の中で  
よく知られている言葉を  
表していました。  
わたしにとって  
大きな意味を持つことになる  
このメッセージを  
だれが残したのかは、  
後になって分かりました。**

母に話すと、あっさりこう言われました。「それが祈りの答えよ。」

御存じかもしれませんが、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師は、1837年に初めてイングランドにやって来たとき、プレストンで伝道を開始しました。当時、この町はビクトリア女王の統治を祝う大祝賀会の最中でした。馬車から降りた宣教師たちの頭上にあった横断幕には、太い金文字で「真理は勝つ」と書かれていました。

この言葉は教会で広く用いられるようになり、様々な出版物にも掲載されました。例えば1841年に発行されたノーブーの『タイムズ・アンド・シーズンズ』紙には、インディアナでの伝道について報告するある長老の手紙が掲載されましたが、その中にこのような文言がありました。「主は福音を宣べ伝えるために、この世の弱い者を選ばれましたが、真理は勝ち、栄えるのです。」<sup>1</sup>

主を信じて、わたしは宣教師志願書を提出しました。21歳の誕生日に、誕生日を祝う郵便物とともに、イングランド・ロンドン南伝道部で働くようにとの召しの手紙が届きました。何年もの間活発な教会員ではなかったため、自分は無力でふさわしくないという気持ちがまだ残っていました。そのようなわたしが、先に述べた初期の宣教師と同じことを理解したのは、もう少し後になってからのことでした。主は福音を宣べ伝えるために、この世の弱い者を選ばれたとしても、真理は勝ち、栄えるということです。

わたしは信仰をもって神殿に行き、エンダウメントを受けました。神殿から出て来たときに、二人の宣教師に会いました。わたしのホームワードで伝道したことのある宣教師です。彼らと話したときに、わたしはヒース原野での経験を話題にしました。すると長老のうちの一人がにっこりほほえみ、次のような話をしてくれたのです。ある特別な準備の日に、彼と同僚はヒース原野で徒歩旅行をしました。その途中、二人は丘の中腹に幾つか石を並べ、慣れ親しんだ言葉を書きたいという気持ちに駆られました。その言葉が「真理は勝つ」だったのです。

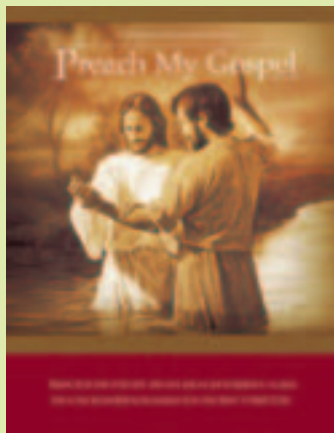
事のいきさつを理解したとき、わたしたちの目から涙がこぼれ落ちました。この地域に詳しい人は知っていますが、ヒース原野には何マイルにも及ぶ小道が四方に広がっています。そのような地形でありながらも、わたしは自分の選んで、宣教師が石を並べたまさしくその地点に行き着いたのです。そのとき初めて分かりました。あの日、あの丘で、主はわたしの祈りにこたえてくださっていたのです。■

注

1. ジェーコブ・ケイツ, *Times and Seasons*, 1841年12月1日付, 621



# わたしたちのスペース



## 『わたしの福音を の 宣べ伝えなさい』に夢中

**あ**る日、家の片付けを手伝っていると、兄が伝道中に使っていた『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を見つけました。宣教師が伝道に使う本だとは知っていましたが、それまで見たことがありませんでした。読み始めたら最後、途中でやめることができなくなりました。(まだ片付けが終わっていませんので、読むのを中断しなければならなかったことが、ほんとうに残念でした。)

わたしは宣教師はどうやってあのような働きができるのだろうと常々考えていました。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使えば伝道をもっとよく理解できることに気づきました。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』はまた、人と親しくなって話したり、福音を分かち合ったりする技術を磨くうえで役立っています。

アリッサ・F (上), 19歳  
(アメリカ合衆国  
ニューハンブシャー州)

写真: Shutterstock / Getty Images, No. 50505050 / Shutterstock, J. Taylor / Shutterstock, A. E. H. / Shutterstock

**ス**キューバダイビングを教わってから、わたしはデジタル水中カメラを手に入れて、海で見かけるあらゆる魚を撮影しました。この趣味を通して、地球が至高の創造物であるという証<sup>あかし</sup>を得ました。神がおられる証拠は何かと尋ねられるとき、わたしはモーセ書第6章63節を思い出します。主はこのように言われています。「すべてのものは、現世にかかわるものも霊にかかわるものも、わたしのことを証するために創造され、造られている。すなわち、上の天にあるもの、地の上にあるもの、……地の下にあるもの、……すべてのものがわたしのことを証するのである。」



ベーツ長老, 20歳 (フィリピン・カワヤン伝道部)

## わたしの好きな聖句

### 2 ニーファイ 2:13

この聖句は神が実在されると述べています。もし罪がないなら、義もないと言っています。反対のものがなければなりません。これは神について証<sup>あかし</sup>している聖句です。

マリア・H (下), 15歳  
(ドイツ・ヘッセン州)



## ユース カンファレンス

**あ**る年、ユースカンファレンスに参加したとき、予想もできなかったほどの大きな影響を受けました。

楽しい活動が満載の3日間で、胸を躍らせながらなじみの友達と再会したり、新しい友情をはぐくんだりしました。わたしのいちばん好きな時間は証<sup>あかし</sup>会でした。互いに福音についての証を述べていると御霊を強く感じ、たくさんの人が感動の涙を浮かべていました。わたしの場合、カンファレンス後も数日間にわたってこの美しい余韻が消えず、このままずっと続けばいいのと思いました。テレビを見たり、教会に関係のない音楽を聴いたりする気にもなれませんでした。この経験は教会に対する証をほんとうに強めてくれました。

御霊こそ教会が真実かどうかを知る唯一の方法です。聖文を研究したり、毎日心から祈ったり、御霊を感じたときのことを考えたりするなど、聖霊がともにいてくださるような行動をしなければなりません。御霊とともに生活するなら、御霊が心を燃やしてくださり、教会が真実であることを知ることができます。わたしは福音が大好きです。福音によって答えや導きを得られます。わたしたちが持っている知識を世界中のすべての人にも持ってほしいと思います。

ターニー・H, 20歳 (南オーストラリア)



「わたしたちのスペース」(Our Space)への投稿は電子メールで [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) へお送りください。

# 信号での奇跡

その人はスクーターに乗って、信号待ちをしていました。  
声をかけられる時間は数秒しかありませんでした。

ベンジャミン・ハイフォード

**同**僚のプラット長老とわたしは台湾の台中の市場を歩いていました。大きな交差点で立ち止まり、信号が変わるのを待ちました。立ち止まってすぐに、背後で聞き慣れた音がしました。数台のスクーターが傍らに止まったとき、わたしはだれか話しかけられる人はいないかとそちらを見ました。その瞬間、心と思いはっきりとした印象を受けました。声や言葉が聞こえたわけではありませんが、わずかに数歩左側のスクーターに乗っている男性に話しかける必要があると感じたのです。

わたしはせき立てられるようにその人に話そうと近づきました。まるでだれかがほんとうに背中を押して足を出すように誘導しているかのような心地でした。わたしは口を開いて男性に「ご機嫌いかがですか」と尋ねました。男性はわたしを見て、嫌な一日だと答えました。その途端、信号が赤から青に変わったので、わたしは意気消沈してしまいました。男性がスクーターに乗って去って行ってしまうと思ったからです。イエス・キリストのまことの生ける教会の回復や預言者ジョセフ・スミスのこと、モルモン書について一切話せていませんでした。

それどころか、教会の名前さえ告げていませんでした。

周りにいた人々はスクーターに乗って去って行きましたが、男性は去りませんでした。道路わきに移動してもっと話さないかと彼は提案してきました。わたしは驚きながらも、感謝して承諾しました。路肩に移動した後、プラット長老とわたしは男性に教会の名前やそのほか多くのことを伝えました。

数週間後、蘇孟緯<sup>ス・メン・ウェイ</sup>という名のその男性は、二人の息子と二人の娘とともにバプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として確認を受けました。

この経験から、主の方法と主が定められた時間に従って主の業を忠実に行う努力をするなら、奇跡を<sup>ま</sup>目の当たりにする特権にあずかれることを学びました。預言者モロナイは「神は奇跡の神であることをやめてはおられない。見よ、神が行ってこられたことは、わたしたちの目に驚くべきものではないだろうか」と宣言しました（モルモン9：15 - 16）。奇跡は、人の心に触れて、人生を変えることができます。

『わたしの福音を<sup>の</sup>宣べ伝えなさい』は、宣教師や教会員に次のように約束

しています。「あなたと回復された福音とを受け入れるように主〔は〕人々を備えておられ〔ます〕。主はあなたを彼らのもとへ導いてくださるか、彼らをあなたのもとへ導いてくださいます。……このような人々はあなたが主の僕<sup>しもべ</sup>であることに気づくことでしょう。彼らは進んであなたのメッセージにこたえます。』<sup>1</sup> プラット長老とわたしがちょうどあのとき、あの信号にいたのは決して偶然ではありません。

天の御父はわたしたち一人一人を御存じで、愛しておられます。回復された福音をすべての人が知ることができるよう、御父は偶然ではない方法で道を備えておられます。主は蘇孟緯の人生で起きた困難や問題を心に留めておられました。彼が失業したばかりで、その朝家庭内で口論があったことを主は御存じだったのです。

福音は蘇家族にいっそう平安をもたらし、家族のきずなを強めました。生活の中でより大きな幸福と進むべき道を見いだす





助けとなりました。彼らは希望を持ち、恐れずに人生の困難に立ち向かう力を得たのです。

わたしたちは初め気づかないかもしれませんが、備えられた人々はわたしたちが主の僕であることを悟ります。わたしたちの中に、何か違うものがあることに気づくのです。良いものを目にして、それについてもっと知りたと思うのです。人は聖霊を感じると、自ら進んでメッセージに従いたいと思うようになります。福音のメッセージが台湾の蘇家族の心に触れ、彼らの人生を変えたように、世界中のどこであろうとわたしたちの知っている人々の心に触れ、その人の人生を変えることが可能であり、また実際に変えていくことでしょう。

わたしたちは、導きを求めて祈り、毎日次のように自問することができます。「わたしの知り合いで、回復された福音を知るために主が備えておられる人はだれだろうか。」このように信仰を働かせるとき、わたしたちが幸いにも知っている貴重な真理を分かち合うために、わたしたちは聖霊の促しに従って喜んで口を開くことでしょう。

すばらしい機会が確かに待ち受けています。■

注  
1.『わたしの福音を述べ伝えなさい——伝道活動のガイド』155, 156

# よく備えて コートに入る

その場にいるだけでは  
不十分です。

□ ヘル・エンリケ・ベラス  
ケス・パレデスの生活の  
中で、バスケットボールは  
最も重要なことの一つです。ロヘル  
には、コキという愛称があります。そ  
れは、試合終了まで残り時間わずか  
というときに、彼をコキと呼ぶ方がは  
るかに簡単だからです。

コキはペルー・プーノ中央ステーク  
の会員です。ベンソン・ジャズ男子  
17歳未満チームで先発フォワードを務  
めています(ペルー・プーノの教会員  
が支援しているこのチームは、コミュ  
ニティーリーグに所属しています)。  
コキのチームは、過去2シーズンとも  
無敗で決勝に進出し、どちらも準優  
勝しました。

このチームでの経験を通して、コキ  
はバスケットボールについて多くのこ  
とを学んだだけではなく、福音に添っ  
た生活をし、セミナーを有意義なも  
のにすることについてもたくさん学び  
ました。

「セミナーとバスケットボールは  
そんなに違いません。」コキはそう  
言った後、笑いながら付け加えます。  
「どちらをするにしても早起きしなけ  
ればなりません。」

冗談にとどまらず、コキは実際に



大好きなスポーツと大好きな福音の間に  
ある、重要な類似点を見つけています。  
すなわち、コーチの言葉をよく聞き、教  
わったことを実践し、学んだことを練  
習し続ける必要があることです。

## コーチに耳を傾ける

自分のコーチは最高だけど、コーチ  
がどんなにすばらしくても選手が言う  
ことを聞かなかつたら意味がないとコ  
キは言います。セミナーも同じです。

「バスケットボールでもセミナー  
でも、良いコーチに恵まれています。  
でも、ぼくが彼らの言葉に耳を貸さな  
ければうまくできません。」

コーチはシュートの仕方など、選手が  
上達できるように助言しようとします。  
「教師も同じです」とコキは言います。



アルマは、人が主に向ける「注意力と熱意」  
 (すなわち、主が言われたことを聞いて実践する度合い) に応じて主の言葉が授けられると教えています。「心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉みことばを与えられて、……心をかたくなにする者はみことば わずかな御言葉しか与えられず、ついに神の奥義をまったく知らない有様ありさまとなる。」  
 (アルマ 12:9-11, 強調付加)



何よりも、教師は生徒が人生の敵に打ち勝てるように助けようとします。「世俗的な事柄をわきに置く方法を教えてくれ、誘惑に負けないようわたしたちを強めてくれます。」

バスケットボールの練習だろうと、セミナーや教会だろうと、ただその場にいるだけでは上達しないことをコキは学びました。コーチの言葉に耳を傾ける必要があるのです。



### 教わったことを練習する

コーチが何か新しいことを説明してくれると、コキはよく聞くようにしています。しかし、コーチの言葉をほんとうに理解したいなら、練習しなければならぬことも学びました。

練習、つまり実践することは習得の重要な要素だとコキは語ります。コーチがシュートの正しいフォームについて一日中講義して、繰り返し手本を見せても、言われたことを選手自身が練習するまでは、身に付けることはできません。

「祈りについても同じ方法で学びました」とコキは言います。絶えず個人的に祈ることで主の助けを得られると教わりました。「でも、自分でやってみて初めてそれが真実だと分かった

のです。」

福音の原則を実践すると、その原則が真実であることを聖霊が証してくださいます。

「新しいことを学んでも、それを実践しなければ、全然学んでいなかったのと同じです」とコキは語ります。

### 使うか、失うか

コーチがシュートの仕方を教えてく



れるとき、コキはよく聞いて学んだことを採り入れました。しかし、さらに上達するためには熱心に練習しなければなりません。

熱心に行うとは、敵が目の前にいても学んだことをひたすら粘り強く実践することを意味します。

「熱心でなければなりません。練習するのをやめたら、腕が鈍ってしまいます」とコキは語ります。

コキがこの大切な教訓を学んだのは、年上の選手と激しくボールを競り合って鼻を骨折し、しばらく練習に出られなかったときのことでした。

「練習しなければ、進歩しただけでなく、築いてきた基盤も失います。霊的なことも同じです。耳を傾けて学んだことを実践するなら、さらに多

くを学びます。さもなければ今持っているものまで失います」とコキは語ります。

### 決してあきらめない

コキのチームメートは最善を尽くしてコーチの言葉を聞き、教わったことを実践してきました。学んだことを忘れないように、何時間も練習します。

しかし、最善を尽くしても、完璧にはできないことや、落胆を味わうことがあることも知りました。コキは言います。「ぼくたちは一生懸命頑張りました。それなのにまた優勝を逃してがっかりしました。」

すぐに完全になれる保証はないとはいえ、努力をやめたら優勝は不可能です。これまでのところ、改善や進歩など、努力には多くの報いがあることをコキは経験してきました。


ワード宣教師として奉仕しているコキは、バスケットボールのコート以外でも熱心に努力して報いを得てきました。彼は、しばらく教会に来ていなかった二人の若い男性の興味を引こうと映画鑑賞会、キャンプ、スポーツ活動などの企画に携わってきました。「初めは迎へに行かなければ来てもらえませんでした。今は自分から来てくれます。少しの時間とたくさんの訪問が必要だったけれど、今彼らは欠かさず来ています。」

バスケットボールやセミナー、教会での奉仕の中で、コキはベニヤミン王が語った「賞を得る」ために勤勉に励むことの意味を学んでいます（モーサヤ4:27）。

また、コートの中でも外でも、努力に見合った報いがあることも学んでいます。■



# しっかり つかまっ ていなさい

A close-up photograph of a hand gripping a horizontal metal bar. The hand is positioned in the center of the frame, with fingers wrapped around the bar. The background is a plain, light-colored wall. The lighting is soft, highlighting the texture of the skin and the metallic surface of the bar.

**「鉄の棒をしっかりと握り、決して放してはいけません。」**

中央若い女性会長会第二顧問 アン・M・ディブ

「しっかりつかまっ  
ていなさい」『リアホナ』2009年11月号, 80

# 信仰深い少女、 エマ

後に預言者ジョセフ・スミスの妻となった  
信仰深い小さな女の子について、  
どれくらい知っていますか。

教会歴史部  
マーク・ステーカー



野菜を収穫するのを手伝ったりしてました。雪が解け始めるころになると、お父さんがかえでの樹液を大きなバケツに集めるのを見ていました。そしてお母さんが樹

お父さんが森の中に入りをしにやって来ました。お父さんは、自分の小さなむすめが自分のためにいのっているのを聞いて、心を打たれました。そして主に對するお父さんの信仰は強められました。

エマは背が高く、頭の良い女性へと成長しました。読み書きがとても得意でした。エマが21才のとき、ジョセフ・スミスという名の、働き者で頭の良い男性がヘイル家に来て住むことになりました。エマ・ヘイルは良い性格の持ち主で、機知に富んでいました。また高潔な若い女性でもありました。エマとジョセフがたがいを自分の結婚相手に選んだのも、少しも不思議ではありませんでした。■

**エ**マ・ヘイルは1804年7月10日に生まれました。農場でお父さんとお母さんと8人のきょうだいと一緒に暮らし、おばさんやおじさん、いとこたちも近くに住んでいました。

ヘイル家の農場はペンシルベニア州ハーモニーの、サスケハナ川沿いの美しい谷にありました。

エマは果樹園からリンゴを取ったり、羊の赤ちゃんが遊ぶのを見たり、大きな畑から

液をにつめて、メープルシュガーを作るのを手伝いました。

エマは赤ちゃんだったころに、キリスト教の教会でバプテスマを受け、子供時代には日曜学校に通ってました。でも、イエス・キリストの教会はまだ回復されていませんでした。

ある日、8才くらいだったエマは、森の中に行っておいのりをしました。イエス・キリストに対して強い信仰を持っていなかったお父さんのことが心配だったのです。エマがいのっていると、



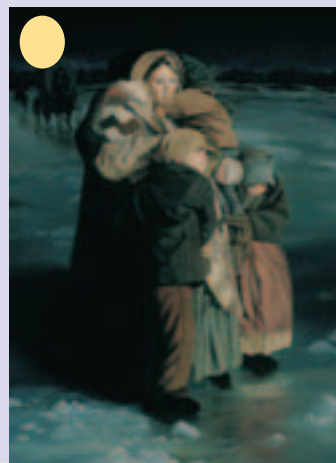
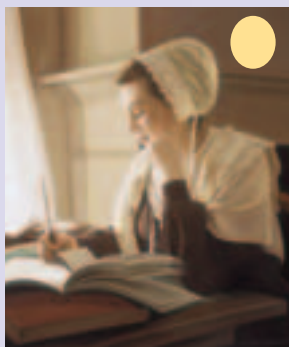
右「すべのいじもの」ジョー・ロジャース。葉の上に輝かぬ。リス・レモン・スワインドル画、フアウンデーショナルアート社。複写は禁じられています。「クモの丘に」ジョー・ロジャース。リス・レモン・スワインドル画、フアウンデーショナルアート社。複写は禁じられています。「夜、慰めを」リス・レモン・スワインドル画、フアウンデーショナルアート社。複写は禁じられています。「心を一」リス・レモン・スワインドル画、フアウンデーショナルアート社。複写は禁じられています。「援助協会の組織」テール・エルボーン画。写真/シド・Aクラーク。





おとな  
**大人になったエマ**  
 おとな たいせつ こと  
**大**人になったエマが行った大切な事  
 がらに合う絵を探しましょう。出  
 来事に合った番号を絵に書いてください。

1. ジョセフがモロナイから金版を受け取るためにクモラのおかに行ったとき、エマはジョセフについて行き、馬車で待っていました。
2. ジョセフが金版を翻訳したとき、エマは最初の筆記者でした。ジョセフは言葉を翻訳しながら、エマに何を書くかを伝えました。
3. エマは教会の最初の賛美歌集のために賛美歌を選びました。
4. エマはノーブーで、最初の扶助協会会長となりました。
5. エマは病気の人を助け、貧しい人を自分の家にとめてあげました。
6. 教会員たちがミズーリの家を追い出されたときに、エマと子供たちはにげるためにこおったミシシッピ川を歩いてわたりました。エマは、ジョセフが翻訳した聖書の原稿が入った二つの布ぐるろをこしに結びつけて運びました。
7. エマは愛情の深い母親で、11人の子供がいました。そのうち2人は養子でした。しかし大人になるまで生きることができたのは、そのうち5人だけでした。
8. エマは夫のジョセフをかれの生涯の間ずっと愛し、主の教会を回復するという大切な働きをしたジョセフを支えるためにいろいろなことをしました。



だいかんちょうかいだいに こもん  
大管長会第二顧問

ディーター・F・  
ウークトドルフ管長



# 福音は みんなのためのもの

わたしが11才のとき、家族で西ドイツに引っ越ししました。父と母はクリーニング屋をして生活をし、わたしは洗濯物を配達しました。ピカピカの赤い自転車を見かけると、配達用にそんな自転車がほしいと思いました。洗濯物を乗せた荷台を引っ張るにはもっとがっしりした自転車がひつようでした。わたしはがっこうが始まる前と放課後、洗濯物を積んだ重い荷台を引っ張って自転車で回りました。ほかの子供たちが遊ぶのを横目で見ながら働くのはつらいことでした。でも、家族全員が一生懸命働かなければなりませんでしたが、クリーニング屋を営むうえで自分も大事な役割を任されていたのです。

成長するにつれて、まだ自分にとって大切な良いことであるかどうか分からないことを行うことから得られる祝福について学びました。わたしは幼かったころ、肺の病気にかかりましたが、そのときはだれも気づきませんでした。後に、わたしは空軍に入りました。そこで医者が肺にかけを見つめました。しかし、一生懸命働いたことで体は自然と治っていたのです。わたしはにんたい力と強さを身に付けていたのです。医者には、病気は自然に治っていて、もう問題はないと言われました。もしあるとき病気が治っていなかったなら、パイロットにはなれなかったでしょう。

わたしはパイロットとして世界中

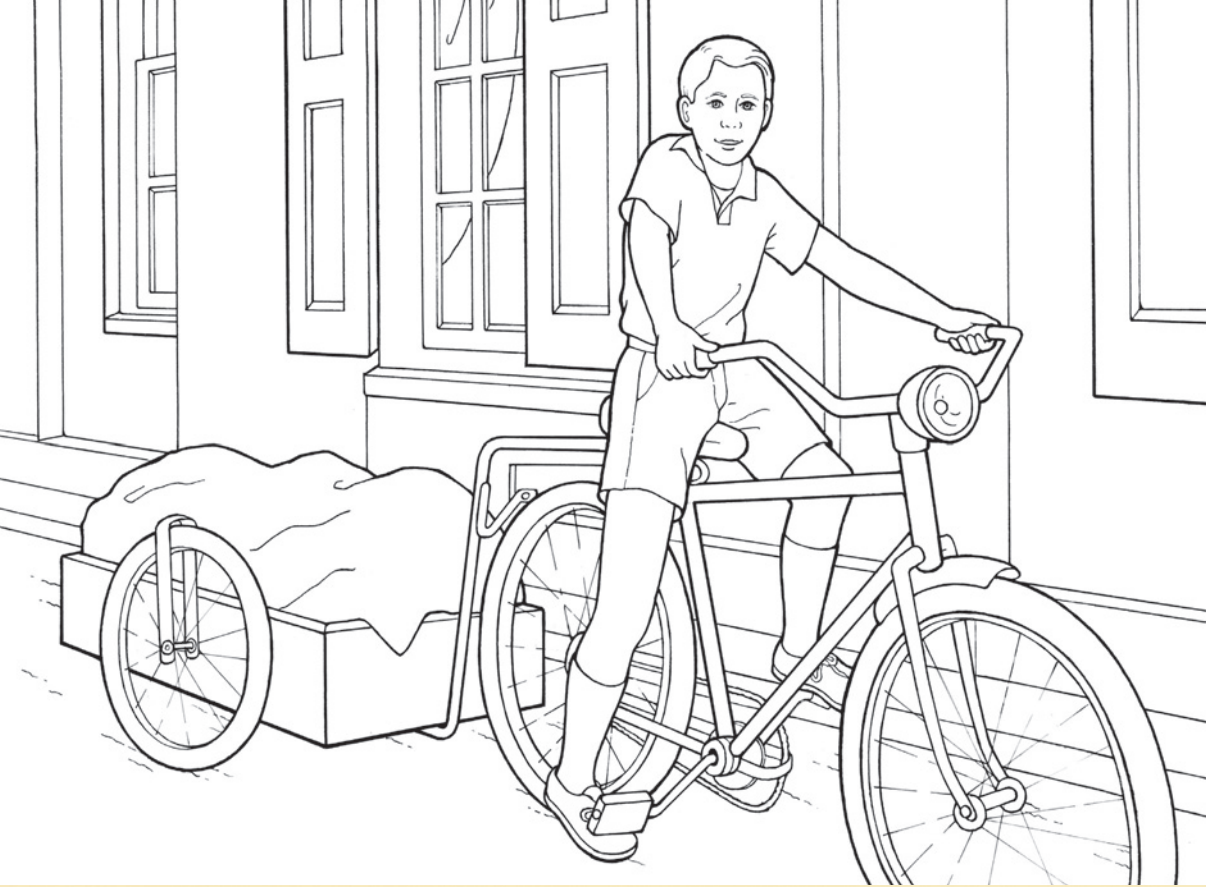
を旅しました。窓から星や雲や景色をながめるのにあきたことはありません。ちがう文化を持った様々な国々の美しさを目にするのができました。様々な所へ行き、そこで人々や教会を見てきたわたしは、どの国に住もうとも、どんな伝統を持っていようとも、福音はすべての人のためにあることを知っています。これはイエス・キリストの福音です。聖文に書かれたものであれ、生ける預言者の語ったものであれ、教会機関誌で読むものであれ、総大会で聞くものであれ、神の言葉はみんなのためにあるのです。■

「小さなお友だちへ」『リアホナ』1999年4月号、フレンド2-4から



左—絵：デビッド・ミケル。右—絵：バス・M・ホイッタカ





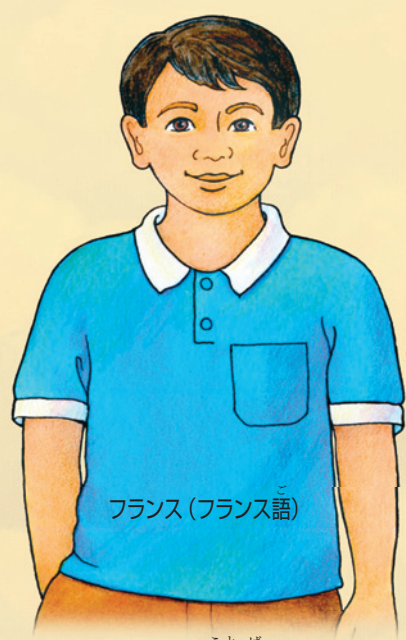
家族を助ける  
**ウ**ークトドルフ管長は若いころ、洗濯物を自転車で届けて家計を助けてました。自転車に乗っているウークトドルフ管長の絵に色をぬりましょう。そして次に、あなたの家族を助けるためにあなたにできることを絵にかいてみましょう。

「Ang ebanghelyo ay para sa lahat!」  
 (アン・エバンヘルヨ・アイ・バラ・サラハット!)

「L'Evangile est pour tout le monde!」  
 (レバンジール・エ・プール・トゥール・モンド!)

「O evangelho é para todos!」  
 (オ・エバンジェリョ・エ・バラ・トードス!)

「The gospel is for everyone!」  
 (ザ・ゴスペル・イズ・フォー・エブリワン!)



フランス (フランス語)



オーストラリア (英語)



フィリピン (タガログ語)



ブラジル (ポルトガル語)

### いろいろな言葉で

**子**供のところに一生懸命働いたおかげで、ウークトドルフ管長はパイロットになるための強さと健康を得ることができました。ウークトドルフ管長はいろいろな国に飛んで行き、様々な言葉を話す教会員と会うのが好きでした。上の子供たちはみんな「福音はみんなのためのものです」と言っています。どのふき出しが、どの子供の言葉が当ててみましょう。

# わたしは イエス・キリストを あいしているので、 しゅに したがいます

サンドラ・タナー、  
クリスティーナ・フランコ

**み**なさんは せいを 通して すくいぬしの あいを かんじることが できます。みなさんは どのようなときに すくいぬしの あいを かんじますか。

それは おいのりを したり せいぶんを よんだり しよとうきょうかいの 歌を うたったりするときですか。せいさんを うけるときに しゅの あいを かんじますか。しゅの あいを かんじると どうなりますか。心が あたたく なりますか。へいあんな 気もちに なりますか。すくいぬしの あいを かんじると、わたしたちも しゅに あいを しめしたいと 思う ようになります。

今月の せいぶんは わたしたちが しゅの いましめを まもることによって かみさまに あいを しめすことが できると 教えています。せいぶん日記に あなたが 知っている いましめを いくつか 書いて ください。かみさまに あいを しめすために いましめを まもるとき、かみさまは わたしたちが ごじんの あいを もっと かんじることが できるように しゅくふくして ください。

## 2010年9月 せいぶん日記

ヨハネ14:15を 読みましよう。

じゅうじゅんに なり、天のお父さまに あいを しめすことが できるように いのりましよう。

ヨハネ14:15を あんき しましよう。それから、ほかの人の 前で 言ってみましよう。

下の かつどうの 一つか、自分で 考えた かつどうを 行いましよう。

- ほかの人が ヨハネ14:15を あんき できるように たすけましよう。
- 出エジプト20:3-17に モーセの じゅっかいが 書いてあります。それを 読んで 63ページの 右に それぞれの いましめについて 絵や ことばを 書きましよう。そのうち 一つの いましめをつぎの 週の 間に もっと よく まもれるように もくひょうを 立てましよう。
- どのようなときに せいを かんじ、すくいぬしが あいしてくださっていると 知ることができたか 親か しよとうきょうかいの 先生に 聞いてみましよう。
- すくいぬしの あいを かんじたときのことを おぼえておき、そのことについて 日記に 書きましよう。

自分で えらんだ かつどうを することによって ヨハネ14:15を もっと よく りかい できましたか。自分がした かつどうについて、日記に 文か 絵を 書きましよう。







1. \_\_\_\_\_

2. \_\_\_\_\_

3. \_\_\_\_\_

4. \_\_\_\_\_

5. \_\_\_\_\_

6. \_\_\_\_\_

7. \_\_\_\_\_

8. \_\_\_\_\_

9. \_\_\_\_\_

10. \_\_\_\_\_

# わたしたちのページ

**ぼく**は、未日聖徒イエス・キリスト教会の会員の家に生まれたことをとても感謝しています。教会にどうことよって、天のおん父やイエス・キリスト、聖霊について今までたくさん学んできました。イエス・キリストは、ぼくにとって偉大な模範です。イエス・キリストが、すべての人を愛しておられることを知っています。



エリッサ・M, 9才  
(フィリピン)



バプテスマを受けたとき、ぼくは強いあかしを得ることができました。ほんとうに強く聖霊を感じたのです。聖霊は、正しい選びができるようにぼくを助けてくださいます。

ジョセフ・スミスは、昔から現代までのすべての預言者と同じように、神の預言者でした。モルモン書と聖書は、ほんとうに神からあたえられた聖典です。

ルーカス・D, 11才 (ドイツ)



ケイリン・C, 11才  
(コスタリカ)



**ぼく**が学校でクラスの友達とバスケットボールをしていたとき、一人の男の子がほかの子にわざとボールをぶつけて遊んでいました。それはいけないことだからと言ってやめさせようとしたのですが、その子はぼくの言うことを聞きいれようとはしませんでした。

その後ぼくは、徳について教会で話をするようにビショップからたのまれました。でも徳とは何かも分からなかったし、自分に徳というものがあるかどうか分かりませんでした。するとお母さんが、学校で友達同士が仲良くできるようにがんばったり、弱い人を助けたりしたぼくには徳が備わっていると教えてくれました。

デビット・S, 10才 (台湾)



**ぼ**かの人に奉仕するようにと、いうモンソン大管長の言葉を聞いたわたしは、とても困っている小さな女の子に自分のお気に入りのサンダルを上げました。ほかにもいろいろできることがあればその子のためにしたいと思います。

サヤン・S, 10才 (ブラジル)

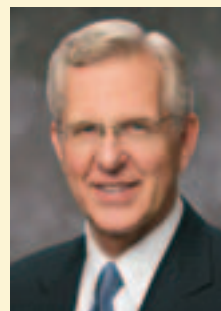


左—バスマンボールS写真 © Getty Images



十二使徒定員会の

D・トッド・クリストファーソン長老は、  
神権定員会についての思いを  
次のように話しています。



# 神権定員会について 知っていますか

今日のイエス・キリスト教会における神  
権定員会と、それぞれの義務は聖文  
の中に明らかにされています。  
今こそ神権定員会をその名にふさわしく、

その務めを果たす組織とするために力の  
限りをつくすと決意してください。

「神権定員会」「リアホナ」1999年1月号、44-46を  
見てください。



神権定員会やグループがクラスにたつとき、会員はともに学び、  
「神の善い言葉で養われ」(モロナイ6:4)、霊的に成長することができます。



定員会は奉仕を行う組織です。——メルキゼデク  
神権定員会とアロン神権定員会の最も大切な務め  
は、奉仕をすることにあります。



神権の聖任を受けたみなさん一人一人は、それ  
ぞれの定員会の一員です。定員会を作るのに必  
要な人数の神権者がいない所に住んでいても、  
あなたは神権者のグループの一員であり、やがて  
それは大きくなって定員会となります。





# エホバ、ちゅうじつな ダニエルを おすくいになる

ダイアン・L・マンガン

**ダ**ニエルは、自分の前に  
出された食べものと  
コップに入ったワインに  
目をやりました。それは、エホバが

ふるさとから遠くはなれて



**ダ**ニエルとその友だちはエルサレムにすんでいましたが、とらえられて、家からおよそ800キロもはなれたバビロンにつれて行かれました。そこは、ラクダにのって少なくとも5日間もたびをしなければならぬほど遠いところでした。

バビロンは、バビロニアという国にあったみやこです。バベルともよばれたバビロンは今もありません。しかしかつてそのみやこは、げんざいのイラクという国のバグダッドから遠くないところにあったと言われて

のぞまれるようなけんこうによいものではないことをダニエルは知っていたので、けっして食べないと心にきめていました。

ダニエルの友だちのシャデラクとメシャク、それにアベデネゴも、王さまからあたえられる食べものは食べないときめていました。この4人のヘブル人のわかものは、エルサレムでとらえられ、バビロンにつれてこられていました。ネブカデネザル王は、かれらが強くなるようにとの思いから、ぜいたくな食べものやのものをあたえようとしたのです。

しかしダニエルとその友だちは、王さまからあたえられる食べものが、自分たちを強めたり、けんこうにしたりするものではないことを知っていました。そこでダニエルは王さまのめしつかいにこう言いました。「わたしたちにやさいと水をください。そして10日後に、王さまのすすめるぜいたくな食べものを食べた人たちとわたしたちをくらべてみてください。」めしつかいはダニエルのねがいを聞き入れてくれました。

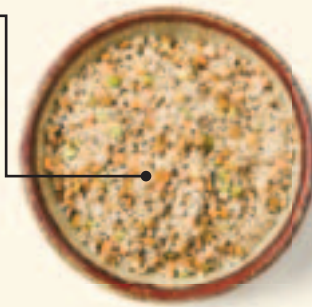
めしつかいは4人のわかものに、まめとこくもつで作った「**プルス**」というたべものを毎日こんで来ました。またのみものもワインではなく水をもって来ました。10日たってほかにとらえられた人たちとくらべたところ、この4人のわかものの方がずっと元氣そうなのを見ためしつかい

は、それいらいけっして4人に王さまのすすめる食べものを食べるようにと言うことはありませんでした。

ダニエルが大きくなるにつれてエホバは、かれにちえとちしきをおあたえになりました。ネブカデネザル王は、ダニエルをしんらいして、いろいろなことをそうだんしました。

バビロンの新しい王さまになったダリヨスは、かしこいダニエルに、王国をおさめるための大切なつとめをまかせすることにしました。ところが、中にはダニエルをねたましく思う人たちがいました。その人たちは、ダニエルが1日に3回天のお父さまにいのりをささげているのを知っていました。そこで王さまに、新しいおきてをさだめるようにすすめました。そして、いのっている人を見つけたら、おなかをすかせたライオンのいるあなにほうりこむということにしたのです。

おきてのことは知っていましたが、ちゅうじつなダニエルは、その後も毎日おいのりをささげていました。へやの外で聞き耳を立ててようすをうかがっていた人たちは、ダニエルのいのる声を聞きつけるやいなや、大いそぎで王さまの



教義と聖約  
だい89しように、  
今のじだいの  
けんこうによい  
食べものについての  
教えがあります。



エホバとはどなたですか

**エ**ホバとは、イエス・キリストの もう一つのお名前です。イエスさまは 天のお父さまの 長子（いちばん上のむすこ）です。天のお父さまは イエスさまに、せかいをそうぞうし、人人がご自分のもとに 帰れるようたすけなさいと おめいじに なりました。エホバが 人人に 語りかけるとき、天のお父さまのみこころに したがって 話されます。



旧約聖書の中で、エホバはよく「しゅ」と よばれています。ベツレヘムでお生まれになった後、しゅは イエス・キリストとして 知られるようになりました。



ところに そのことを つたえに行きました。

その話を 聞いた ダリヨス王は、とても こまって しました。新しい おきてなど 作らなければ よかったと思いましたが、いったん きめたからには おきてを まもらなければなりません。ダニエルは ライオンの いる あなに ほうりこまれ、入り口には 大きな石が おかれました。

その夜 王さまは ダニエルの

ことが しんばいで しんばいで たまりませんでした。つぎの朝 早く、王さまは いそいで ライオンの あなの ところに行き、大声で よびかけました。「ダニエルよ、あなたの しんじる かみは、あなたを ライオンから すくってくださったか。」

すると よろこばしいことに、石の むこうから ダニエルが こう 答える 声が 聞こえてきたでは ありませんか。「かみさ

まは てんしを おくって ライオンの 口を ふさがれたので、ライオンは わたしを おそうことが できませんでした。」  
よるこんだ 王さまは、国中におふれを 出しました。ダニエルの しんじる かみさまが 生きておられることと、かみさまが ダニエルを ライオンから おすくいになられたことを 人人に 知らせるためです。■

この話は  
ダニエル書  
1-2しょう；  
6しょうに  
書かれています。

左から——エリサベツと金持ちの若い役人の一画、ハイリッヒ・ホフマン画。C ハリソン・コンロイ社の厚紙より複製。出版/マクミラン・ハイマン・ソブ社。© 1993 Digital Wisdom。写真/レグ・ダイモント、ルネ・ニエル、パール。「キリストの誕生」の二画、ハリソン・コンロイ社の厚紙より複製。

# もっとも すばらしい おくりもの

「すくいの たまものに まさる おお 大いなる たまものは ない」(教義と聖約6:13)

じつわを もとに 書かれました。

ソフィーは家の そうじを  
して お母さんの 手つだい  
を しました。今日は せん  
きょうしが 来ることになっ  
ている からです。コロンビアの ソフィーの かぞ  
くは、せんきょうしが 来るのを いつも  
楽しみに しています。お母さんは、タ  
マル(トウモロコシのこなで 作った き  
じに 肉や やさいを 入れ、トウモロ  
コシのかわで つつんで むした りょう  
り)や、ごはん、コショウで あじつけを  
した トウモロコシ といった とびきり  
の ごちそうを じゅんびしました。

ソフィーの かぞくは せんきょうしか  
ら、イエス・キリストや その教会につい  
て 学んできました。そして 2週間前に、  
クレーグちょうろうと 新しい どうりょう  
の ジェッセンちょうろうから、りょうしん  
や 二人の おにいさんと いっしょに、  
ソフィーは バプテスマをうけたのです。  
それいらい かぞくが かわってきたこと  
を ソフィーは すでに かんじています。  
かぞくは いぜんにも まして よく わ  
らい、歌い、いのるようになりまし  
た。

ソフィーは しょくじの間、りょうしん  
と おにいさんたちが せんきょうしと  
せいぶんについて 話すのを じっと  
聞いていました。しょくじの 後かたづ  
けが おわると、クレーグちょうろうが  
とつぜん「来週 わたしは 帰国します」  
と 言いました。

そんなに 早く いなくなるなんて、  
ソフィーは 思ってもいませんでした。思  
わず なみだが あふれてきました。お  
にいさんたちの 方に 目をやると、や  
はり 今にも なき出しそうでした。

クレーグちょうろうは にどほど 鼻を  
すすり上げた後、「さし上げたい もの  
があります」と言って バッグから 一つ  
の つつみを とりだし、「あなたと む

すこさんたちに」と言って お父さんに  
それを わたしました。

お父さんが その つつみを あける  
と、あんそくにち用の 6まいの 白い  
ワイシャツが 出てきました。しばらく  
だまりこんでいた お父さんは、ようやく  
口を ひらいて「こんなに じょうとうな  
ものは とても うけとれません」と 言  
いました。

とは言ったものの お父さんの 声は  
ざんねんそうに 聞こえました。お父さ  
んも おにいさんたちも 白い ワイシャ  
ツを もっていませんでした。ふくいんを  
大切にしていることを しめすために、  
お父さんが 白いワイシャツを きて  
教会に 行きたいと 思っていることを、  
ソフィーは 知っていました。

「家にも どったら そんなに たくさん  
ワイシャツは いらないと 思いますので、  
つかっていただけると うれしいですが」  
と クレーグちょうろうは 言いました。

「でも、わたしには あなたに さし上  
げるものが 何もありません。」そう言っ  
た お父さんは、モルモン書を さしながら  
こう言いました。「わたしたちは もう、  
ちょうろうたちから、もっとも すばらしい  
おくりものを いただいていますから。イ  
エス・キリストの ふくいんを わたした  
ちに とどけてくれたでは ありませんか。」

よくじつ、ソフィーは クレーグちょう  
ろうに 何か 作って プレゼントしよう  
と 思い立ちました。お母さんと 話し  
合って、セラーペと よばれる 小さな  
かたかけを あむことにしました。お母  
さんから はたおりきを かりて、糸の  
いろを えらび、がっこうの ほかごや  
お手つだいの後、毎日 セラーペ作り  
に せいを 出しました。ゆびが うまく  
うごかないことも ありましたが、糸の  
よりを しんちょうに ほぐしながら、セ

ラーペ作りを つづけました。

そして ついに セラーペが かんせ  
いしました。うす茶色と クリーム色で  
おり上げた セラーペを、クレーグちょう  
ろうが 気に入ってくると いいなど  
おも 思いました。ソフィーは そのセラーペを  
茶色い つつみ紙で つつみました。

クレーグちょうろうが さいごに ほう  
もんした日に、ソフィーは そのプレゼン  
トを わたしました。

「ありがとう、ソフィー。きみのことも  
きみの ごかぞくのこと、けっして わ  
すれないよ。」そう言う クレーグちょう  
ろうの 目には なみだが うかんでいま  
した。

「わたし  
たちも ちょうろう  
のことを ぜったい  
わすれないわ」と  
ソフィーが答えました。■







「**天**の おん父である かみが  
生きておられ、その おん子  
イエス・キリストが わたしたちの す  
くいぬし、あがないぬしであり、……  
しんけんの けんのうが 地上に ふ  
たたび かいふくされた という あ  
かしを もつことは、げんだいの よ  
に あって 明らかに まれであり、きちょうなことです。」

十二しとていん会 M・ラッセル・バラードちょうろう  
「じゅんすいなあかし」『リアホナ』2004年 11月号, 40





# きつと よく なる

きょうい きかんし  
教会機関誌

チャッド・E・ファレス

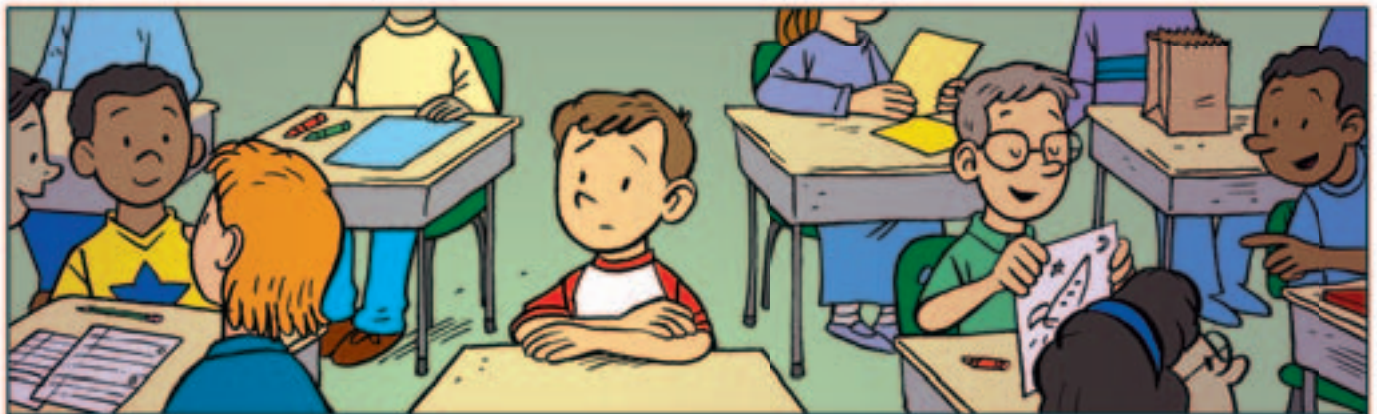
「まことに、しゅは、かれらが よういに  
おもに たえられるように かれらを つよくされた。」  
(モーサヤ 24:15)

じつわを もとに かかれました。

1. エリオットは、きょう はじめて あたらしい がっこうに いくので  
とても しんぱいでした。



3. やすみじかんに なっても いっしょに あそぶこは いませ  
んでした。だれに こえを かけたらよいのか わかりません。  
こういで あそんでいた ふたりの おとこのこが ちょっと  
いじわるなことを いいました。エリオットは ちっとも たのし  
くありません。



2. がっこうに ついた エリオットは、はじめての きょうしつに はいって せきに つきました。みんなは おたがいに しているので、おしゃべ  
りを したり、わらったりしていましたが、エリオットは だまって すわっていました。



4. かなしい きもちで がっこうから かってきました。



がっこうで いやなこと ばかりだった。お かあさんは、 あたらしい おともだちが できるって いったけど、 だめだったよ。 いじわるするこもいて やられっぱなし だった。

5. まあ、それは たいへん だったわねえ。 でも がんばりつづければ きっと よくなるわ。 じゃあ おかあさんといっしょに おいのり してみるの は どうかしら。



うん、そうする。 だって ほんとうに がっこうが たのしくなれば いいなって おもうから。

6. エリオットは、 がっこうが たのしく なるように くるひも くるひも おいのり しました。ときには いやなこと も ありま したが、 すこしずつ ともだちも できて、 いっしょに あそぶように になりました。



7. エリオットは たすけてくださる ように ずっと おいのり を つづけました。 なんしゅうかんかすると まいにち あたらしい ともだちと あそ ぶように になりました。 ときには いやなことを するこも いましたが、 あまり きに ならなくなりました。 エリオットは、 てんの おとうさまが しゅくぶくしてくださったので、 あたらしい がっこうが たのしくなったのだと おもいました。

## ただしいみちをえらぶ

**ケ**ビンはきょういろいろえらぶことがあります。ただしいことをえらぶとたのしくなりますが、まちがったことをえらぶと、かなしくなります。ケビンがただしいことをえらべるようにたすけてあげましょう。ところどころみちがふたつにわかれていますので、ケビンがよいことをしたえにつながるようにすすんでください。



スタート



親の皆さんへ

**子** 供がこの迷路をし終えたら、正しいことを選べば、たとえ大変なときでも幸せでいられることについて話し合ってください。人々に奉仕をしたり、正しいことを選んだりすると、抱えている問題がそれほど深刻ではないと思えるのはなぜでしょうか。

70-71ページに紹介されている話から、正しいことを選び、忍耐すれば、問題がすぐに解決されなくても幸せを感じられることが分かります。モーサヤ書第24章8節から22節にはこの原則が記されています。アルマとアミュロンの話を読むか、要約してください。その際、アルマと彼に従う人々が義になかった生活をしていたにもかかわらず、彼らの重荷はすぐには取り除かれなかったことを指摘してください。主はなぜわたしたちの問題を必ずしもすぐには解決してくださらないのか話し合ってみてもよいでしょう。義になかった生活をしていると、どうして重荷が軽くなるのでしょうか。



# 教会のニュース

## 教会の人道支援活動—— 弟子としての働き

ヘザー・L・ストック（福祉サービス）、  
ラリー・ヒラー（教会機関誌）

**四**福音書の中には、救い主が病気の者を癒し、目の見えない者を見えるようにし、足の不自由な者を歩けるようにした話が至る所にある。また、主に従い、主の業を行い、主のような者になるよう勧める救い主の言葉も聖典の中に数多く出てくる。これを実行するためには、わたしたちにも哀れみの心がなければならず、祝福し、癒し、重荷を持ち上げ、痛みや苦しみを和らげてあげたいという望みを持つ必要がある。

このような望みこそ、教会が世界中で人道支援活動を行う背景にある原則なのだ。この活動の資金は大部分、同じ望みを持つ教会員からの自由意志によるささげ物で賄われている。

近年、100以上の国で何百万という人々が、教会の人道支援プロジェクトの恵みにあずかってきた。

このプロジェクトでは、人里離れた村にきれいな水を引き、歩けない人に歩行補助器具を提供し、失明

救い主に従うための活動の一つとして、教会では広範囲にわたって永続的な人道支援を行っている。

の予防や治療を助け、危機的状態にある新生児を救い、予防接種を行い、穀物の収穫量を増やし、栄養状態の改善を行っている。

### きれいな水

飲用や料理、洗浄、灌漑<sup>かんがい</sup>に使う水がほとんどない地域は世界にたくさんある。このような地域ではしばしば、川や池、浅い井戸から、寄生虫や病原菌で汚染された水を数リットルずつ運んで来て使用している。水を確保するのに時間がかかるため、多くの成人は家族を養えるような生産的な活動に十分な時間をつき込むことができない。

教会の浄水プロジェクトに携わる人たちは安全な水を供給するシステムを提供するだけでなく、下水処理施設を建設したり、基本的な衛生管理の仕方を教えたりもしている。浄水は地元の状況に合わせて、大きなドリルで新たに帯水層まで掘削して引くこともあれば、手作業で井戸を掘ってプラスチックなどで内側を補強し、覆いを付けてそこから引くこともある。また、泉を確保して、浄水を集落までパイプで運ぶこともある。

このプロジェクトを実際に行うのは地元の請負業者で、労働力は水を使う人々が提供する。システムの管理は地元の水供給委員会が行い、世代が代わっても水を供給していける仕組みになっている。浄水プロジェクトの管理者マット・ヒープスは、次のように語る。「現実問題として、このプロジェクトは水より人なのです。すべては、個人と地域社会の自立を目指して行われています。」

2002年以來、54か国235か所でこのプロジェクトが実施され、500万人以上の人々に浄水を提供してきた。

### 歩行補助器具の提供

自分の力では自由に動き回ることができない人にとって、車いすや歩行器、義足のプレゼントは、翼を





与えられるようなものである。教育や仕事、教会への出席、人づきあいや奉仕が一举に可能になる。

ところが、残念なことに、世界には、基本的な歩行補助器具すらない地域や、高価なためにそれが入手不可能な地域が多い。末日聖徒慈善事業団は、このような器具を寄贈することによって、肉体的な障がいのために自分の能力を生かすことのできない多くの人から、障がいという壁を取り除いている。車いすプロジェクトは地元の組織と手を組み、可能であれば地元のメーカーから買い付けることによって、利用者の必要に最も合った車いすを提供できるようにしている。また、車いすを受け取った人が利用法について指導を受けられるようにし、必要な部品や専門知識のある人材を用意して、車いすのメンテナンスもできるようにしている。過去9年間で、30万人以上の人がこのプログラムを通して活動の自由を獲得している。

## 眼科治療

現在、世の中の視覚障がいの中には、医療によって治療や矯正をしたり、進行を食い止めたりすることが可能なものがある。教会の眼科治療プロジェクトでは、専門家を短期間派遣して機器を提供したり、訓練を施したりして、眼科治療の改善と視覚障がいの予防に取り組んでいる。専門家たちは、帰国後も長期にわたって患者の治療が継続できるよう、必要な機器や薬品類を地元の医療従事者に送り続けている。例えばモンゴルでは、眼科治療プロジェクトの訓練を受けた地元の医療従事者が、現在、糖尿病性網膜症の検査を無料で実施している。

## 新生児蘇生

赤ん坊の産声は、母親に感動を与える。しかし、

気道閉塞<sup>へいそく</sup>のために産声が上がりず、泣き声も、看護師や助産師のうれしそうな声もない出産は非常に多く、しかも、多くの場所で起こっている。医者や看護師、助産師は、安価な吸引具と人口呼吸法さえあれば、産声を上げない新生児の命をたいていの場合には救うことができる。にもかかわらず、残念なことに、それらの手段がないために命を落とす子供がいるのである。

教会の新生児蘇生訓練（NRT）プロジェクトでは、専門家を短期間派遣して、地元の医師や看護師、助産師にNRT技術の訓練を施している。このプログラムへの参加者は、地元ではほかの助産師にその技術を伝えなければならないことになっている。

このトレーナー養成方式に従うと、救命法の知識と用具を、言語や文化の壁を越えて瞬く間に普及させることができる。医学は進歩しており、呼吸のできない新生児を助産師がなすすべもなく見ているということはもはやない。これは家族にとって恵みである。LDS慈善事業団の国際医療コーディネーターであるリズ・ハウエルは、「まさしくこれは、画期的な救命プログラムです」と語っている。

## 健康と体力

先進諸国の子供にとってはもはや脅威ではなくなっている病気が、依然として猛威を振るっている国は多い。世界保健機関によると、はしかは幼児のおもな死因の一つとなっている。<sup>1</sup>

飢餓と栄養不良も広い地域で見られ、子供の肉体的精神的発育を阻害し、はしかなどの感染症に対する抵抗力を著しく低下させている。国連食糧農業機関によると、「栄養失調と必須ビタミンおよび鉄分の欠乏のために命を落とす子供は毎年500万人以上に上る。」<sup>2</sup>

## 支援の成果

プロジェクト	プロジェクト数	国数	受益者数
浄水（2002年以降）	235	54	5,271,607
車いす（2001年以降）	626	106	302,236
眼科治療（2003年以降）	72	41	214,545（訓練または治療を受けた人）
新生児蘇生訓練（2003年以降）	145	70	112,999（訓練または治療を受けた人）
食糧（2007年以降）	20	11	343,668

教会は2003年に国際はしか撲滅運動パートナーシップに加入した。教会は財政面の支援にとどまらず、教会員のボランティア活動を通じて現地です予防接種を計画、宣伝、実施するという重要な役割を果たしてきている。2003年以降、およそ5万6,000人の教会員が32の国々で60万時間以上の奉仕を行ってきた。はしか撲滅運動パートナーシップは2001年以降6億人の子供および青少年に予防接種を行っており、はしかによる死亡は、2000年は全世界で75万人だったのに対し、2007年には19万7,000人にまで減少した。<sup>3</sup>

教会の人道支援活動では、飢えた人に食物を与える活動を常に行ってきた。しかし現在では、食糧プロジェクトとして慢性的な飢餓と栄養失調の対策にも取り組んでいる。農村部と都市部の双方において野菜の栽培方法とたんぱく質源となる小動物の飼育方法を教えているのである。ここで教えている技術の多くは、2007年に末日聖徒慈善事業団に組み込まれたベンソン協会が長期にわたって行った調査報告に基づいて開発されたものである。

このプロジェクトの管理者ウェード・スペーリーは、人は体が健康になると、情緒面でも霊性面でも健康になると語っている。

### イエス・キリストに従う

キリストに従う者たちは、苦しんでいる人や助けを必要としている人が世の中にいることを知ると、本能的に助けたいと思うものである。ここで述べた人道支援プロジェクトは、救い主の次の勧告に従って何かしたいと思う教会員に対して、それを組織的かつ効率的に行えるような方法を提供している。「まことに、まことに、あなたがたに言う。以上がわたしの福音である。あなたがたは、わたしの教会で行わなければならないことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。わたしが行うのを見たそのとおりのことを、あなたがたも行いなさい。」(3 ニーフай 27:21)



### 注

1. 世界保健機関概況報告書 no.286, <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs286/en/> 参照
2. 国連食糧農業機関, "Undernourishment around the World 2004," [http://www.fao.org/docrep/007/y5650e/y5650e03.htm#P26\\_3460](http://www.fao.org/docrep/007/y5650e/y5650e03.htm#P26_3460)
3. 「はしか撲滅運動を支援する会員」『リアホナ』2010年2月号, 76 参照: *Ensign*, 2010年1月号, 77

## タバナクル合唱団 レコーディング 100周年を祝う

教会歴史家兼記録者補佐

リチャード・E・ターリー・ジュニア

1 世紀前の今月、テンプルスクウェアのタバナクルにおいて、モルモンタバナクル合唱団とオルガン演奏のレコーディングが初めて行われた。同合唱団はこれを記念して、100年の間にレコーディングされた中から精選した曲を含む3枚組CD「レコーディング100周年を祝って」(*100: Celebrating a Century of Recording Excellence*)を発売した。

名高い指揮者ユーージーン・オーマンディーが語った「モルモンタバナクル合唱団は世界一の合唱団である」という言葉に賛同する人は、今日ではたくさんいるだろう。<sup>1</sup>しかし、タバナクル合唱団は19世紀半ばに結成された後、最初の数十年間はほとんど無名だった。その歌声を聞いたことのある人が世界中にほとんどいなかったからである。そこで、蓄音機が発明されてから32年後の

1909年、コロムビア・フォノグラム社と契約して、合唱団とオルガンが織り成す壮大な音楽を録音するという試みに着手した。

この録音は、当時の限られた技術力では至難の業だったと思われる。当時の限られた技術ではソロの演奏は録音できたが、大きな集団の演奏を優れた音質で録音することは、普通できなかったからである。<sup>2</sup>

1910年の8月末から9月初頭にか



けて3日間にわたり、このレコーディングを指揮したレコーディング技術者アレクサンダー・ハウスマンは、長いラッパ状の集音器を2個、「舞台後方にある左右の2階席の間に渡したロープにつり下げた。この二つの集音器の開口部分の一つがソプラノとアルトの声を拾い、もう一つはテナーとベースを拾った。」<sup>3</sup>

新聞『ソルトレークヘラルド』(*Salt Lake Herald*)は、ハウスマン氏が25曲録音したと報告している。合唱が12曲、タバナクル合唱団専属オルガニストのジョン・J・マクレランによる演奏が10曲、マクレラン兄弟とバイオリニストのウィラード・E・ウィーによる演奏が2曲、前任のタバナクル合唱団専属オルガニストであるジョセフ・J・ダインズ・シニアの演奏による曲が1曲である。<sup>4</sup>

製作したレコードは、最終的な販売枚数も販路も明らかではないものの、人々の反応は良かった。合衆国カンザス州ラーニッドで奉仕していた宣教師のJ・A・バーノンが書いた手紙が教会機関誌『インプルーブメントエラ』(*Improvement Era*)1911年2月号に掲載されたが、そこには次の報告が記載されている。「最近わたしたちはタバナクル合唱団とオルガンによる合唱やソロ演奏のレコードを受け取りました。レコードを聴いた人がいろいろと質問してくるので、福音の原則について説明する機会に恵まれることがよくあります。」<sup>5</sup>

この原始的な方法による初めてのレコーディングが1910年に行われて以来、タバナクル合唱団は175枚以上のアルバムを出している。そのうちの2作品はミリオンセラーになった。レコーディングされた作品の一つは1959年に米国グラミー賞を受賞し、そのほか2007年にグラミー賞の2部門にノミネートされたアルバムもある。しかし、賞や名声よりも大切なのは、同合唱団の歌が、聞く者に与える影響力である。過去1世紀の間に録音技術は劇的に変化したが、同合唱団の音楽は、1910年当時と同じように、録音された媒体を通して人々に感動を与え、その心を鼓舞しているのである。■

#### 注

1. チャールズ・ジェフリー・カルマン, *The Mormon Tabernacle Choir* (1979年), 178
2. "Big Choir Sings into Phonograph," *Deseret Evening News*, 1910年9月2日付, 5 参照
3. "Music and Musicians," *Deseret Evening News*, 1910年9月3日付, 15
4. "Last Records Secured," *Salt Lake Herald-Republican*, 1910年9月3日付, 14 参照
5. "Messages from the Missions," *Improvement Era*, 1911年2月号, 354

### 合唱団のレコーディングの足跡

**1910年:** 初めてアコースティック録音を行う

**1925年:** 初めて電気録音を行う

**1949年-1950年:** 1枚目のアルバムと2枚目のアルバムを発売する。当初、アルバムは何枚かのレコード(片面に1, 2曲ずつ録音)を組み合わせてパインダーにまとめたものだった。

**1959年:** アルバム *The Lord's Prayer* に収録された「リパブリック賛歌」がグラミー賞を受賞する。

**1963年:** 1959年発売のアルバム *The Lord's Prayer* および *Messiah* が50万枚以上を売り上げ、合衆国でゴールド・レコード賞に相当する大ヒットとなる。

**1979年:** 1963年発売のアルバム *The Joy of Christmas* が合衆国でゴールド・レコード賞に相当する大ヒットとなる。

**1981年:** 初のデジタル録音版レコード *The Power and the Glory* が発売になる。

**1985年:** 1965年発売のアルバム *The Mormon Tabernacle Choir Sings Christmas Carols* および1970年発売のアルバム *Joy to the World* が合衆国でゴールド・レコード賞に相当する大ヒットとなる。

**1987年:** オペラ歌手シャーリー・ベレットと共演した特別音楽番組 *Christmas Sampler* にて地域エミー賞を受賞する。

**1991年:** 同合唱団がほかのアーティストと共演して1989年にホールマーク社から出したアルバム *Carols of Christmas* は売上が100万枚を超え、合衆国でプラチナ・レコードに認定される大ヒットとなる。

**1993年:** 同合唱団がほかのアーティストと共演して1989年にホールマーク社から出したアルバム *Celebrate Christmas!* は合衆国でプラチナ・レコードに認定される大ヒットとなる。

**2003年:** 同合唱団独自のレコード会社が創設される。この会社は現在までに30枚近くのCDを出している。

**2007年:** *Spirit of the Season* を発売する。ノルウェー人の歌手シセルと共演したこのクリスマス向けのアルバムは、ビルボードのクラシック部門で1位に輝き、グラミー賞の2部門にノミネートされる。■

## 20周年を祝う ルーマニアの会員

**聖**典に出てくる歴史上の人物にふんしたルーマニアの教会員たちが、会員や友人のための特別プログラムにおいて、救い主や背教、ジョセフ・スミス、モルモン書の話の伝えた。福音を宣べ伝えるためにルーマニアを奉獻

写真/アンドレ・ジュニアラ



してから20周年を迎えたことを祝うプログラムの一場面である。

この式典は2010年2月に行われ、その一環として会員たちが集った場所は、1990年に十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老がこの地を奉獻した場所であった。この式典のテーマ「ルーマニア——近隣諸国を導く光」は、奉獻の祈りで述べられた言葉を基にしている。

ルーマニア・ブカレスト地方部のバシル・ドル地方部会長は次の

20年前に福音を宣べ伝えるためにルーマニアを奉獻した丘に集まるルーマニア・ブカレスト地方部の会員たち。

ように語る。「この式典の間、わたしたちは御霊を感じ、この偉大な業を担っている会員たちの喜びが手に取るように分かりました。早くシオンのステークになって『近隣諸国を導く光』となれるようわたしたちは皆祈っています。」

プログラム終了後、会員たちは小グループに分かれてモルモン書を配布した。

## 夫婦宣教師が マダガスカル賞を受賞

**最**近、マダガスカルのアンドレナリーボで奉仕している夫婦宣教師が、その人道支援の奉仕を評価され、同国市民に与えられる最も栄誉ある賞を受賞した。

18か月にわたる伝道期間中、アメリカ合衆国ユタ州フルートハイツ出身のロバート・バード長老と妻のスーザン姉妹は、飲料水を約10万人に配るなどの人道支援活動の一端を担った。

アンドレナリーボの水管理大臣ニリーラント・ヘリー・アンドリアマハーヅ氏は、この夫婦に名誉勲章を授与するとともに、マダガスカルの宣教師はマダガスカル社会の一員であるなど、教会について好意的なコメントを述べた。■

## 読者からの便り

### 絶えざる啓示の証

『リアホナ』はわたしにとって、教会には今も啓示が与えられていることの証です。支部会長であるわたしは、支部の補助組織について祈っていたところ、この機関誌の中にその答えを見いだしました。『リアホナ』はモルモン書のように簡単で分かりやすく書かれています。どの年齢層の人もキリストの教義を学ぶことができますし、教会に好意的な教会員でない人々にも教会の原則や組織が分かるように書かれています。機関誌のプレゼント購読を利用して、教会員でない友人もこのすばらしい機関誌の恩恵にあずかれるようにするつもりです。

アルメル・ディビィ・キアカカ  
(コート・ディボアール)

### 愛ある業

『リアホナ』がなぜ青少年や子供、ヤングアダルトに焦点を当てたものとなっているのかわたしにはよく分かりませんが、はっきりと分かるのは、これが天の御父の業だということです。わたしは子供のころからこの機関誌を読んできて、そこに載っているメッセージがとても気に入っています。『リアホナ』はわたしにとって非常に大切なものです。今わたしはシングルアダルトですが、天の御父がわたしという個人に関心を持っておられるとは驚くべきことです。この愛ある業に心から感謝しています。

オリビア・ジュティス・チャベス・ベガ(ペルー)

ご意見、ご感想を

[lihona@ldschurch.org](mailto:lihona@ldschurch.org)に  
お送りください。

掲載される際、紙面の都合上、  
あるいは明瞭な表現のために  
編集されることがあります。■



## 世界の出来事

### 教会の大会を特集した放送番組

過去6か月間のおもな出来事の概略を伝える教会製作の年2回のニュース番組『ワールドレポート』が、2010年10月2日土曜日と3日日曜日の総大会の部会の合間に、大会の放送に使用されるのと同じ衛星を通じて19か国語で放送される。地元の言語で放送されない地域へは、英語で放送される。『ワールドレポート』のDVDは配送センターでも販売され、オンラインではlds.org/videos and newsroom.lds.orgで入手できるようになる。

### オンラインで視聴できる教会の番組

インターネットが利用できる全世界の末日聖徒は、過去数年間の様々な教会の番組を視聴することができる。教会の番組放送ウェブサイトlds.org/broadcastを開くと、総大会や中央扶助協会集会、中央若い女性集会、教会教育システムファイヤサイド、大管長会のクリスマスディボーション、その他の集会のアーカイブがある。現在のところこれらのウェブサイトは英語を読んで操作しなければならないが、ほとんどの番組は多くの言語で聞くことができ、幾つかの番組は動画も見るができる。

### 現在オンラインで利用できる家族歴史クラス

家族歴史図書館では、オンラインで利用できる8つの家族歴史クラスを作成した(familysearch.orgでFree Online Classesをクリックする)。このクラスは複数の課に分かれており、イングランド、ドイツ、アイルランド、イタリア、メキシコ、ロシア、アメリカ合衆国などの国々における家族歴史の探求方法についてビデオまたはpdf形式で具体的に教えている。うち7クラスは英語、1クラスはスペイン語で提供している。将来、その他の言語でも利用できるようになる。

### カトマンズの「新たなる始まり」

インド・ニューデリー伝道部にあるカトマンズ支部の若い女性たちは、2010年4月に開催された「新たなる始まり」プログラムに参加した。5人の若い女性とその母親が参加する中、支部会長や若い女性会長、その他の青少年関係の指導者が霊的面で勧告を与えた。若い女性たちは「成長するわたし」プログラムの説明を受け、家族の助けを受けながら自分の目標を達成することと個人の証あかしを強めることの大切さについて学んだ。■

## 家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、伝道活動を扱った記事が幾つか載っています。家庭の夕べを利用して、家族が福音を分かち合うための目標を立てるなど、家族としての伝道計画を作成してみたいかでしょうか。伝道活動に関する話を最近の大会説教から選んで、それについて話し合ってもよいでしょう(トーマス・S・モンソン「備えは祝福をもたらす」[リアホナ]2010年5月号, 64; ロナルド・A・ラズバンド「宣教師の神聖な召し」[リアホナ]2010年5月号, 51)。



「わたし自身のモルモン書」6ページ——この話を読んだから、例えば、「わたし(家族の名前)は父に言った。『わたしは行って、主が命じられたことを行います。……』」などのように、好きな聖句に自分の名前を入れるよう勧めるとよいでしょう。このようにして、自分たちが聖典に出てくる義にかなった男女のようになれることを家族に教えます(1ニーファイ3:7)。

「キリストを家庭に招く」14ページ——家族でこの記事を読んでから、「生けるキリスト」を暗唱する目標を立て、救い主の絵を集めて、家族が「いつも御子を覚え」ておけるようにするとよいでしょう(モロナイ4:3)。

### 簡単だけれども奥が深い

少し前、わたしたちの家族は韓国からアメリカ合衆国に転居しました。落ち着くまで、忙しい日々が続きました。引越して初めての月曜日、わたしたちは簡単な家庭の夕べを開きました。資料といっても聖典が1セットあるだけだったので、キリストがニーファイ人に御姿みすがたを現された場面を第三ニーファイから読みました。まったく新しい状況に置かれ、新しい場所、国に来たにもかかわらず、主がニーファイ人のことを心にかけておられたのと同じように、わたしたちを心にかけてくださっていると感じました。

わたしたちは家族で輪になってひざまずき祈りました。引越して疲れていたにもかかわらず、深い慰めを感じ、お互いに頼れる家族がいて、天の御父、救い主にも頼ることができることを知りました。すべては結局、最も良い結果につながる事が分かりましたし、実際そのようになっています。■  
ユン・ジュン・ナム (アメリカ合衆国テキサス州)

## 水槽から得た教訓

ミネルバ・G・ハークネス

**あ**る日、ビショップリックの一人が、9歳になる我が家の娘が水槽に小魚を飼っているのを知って、魚を少し分けてあげようかと言ってくれました。休暇で家を留守にするので、水槽を空っぽにしていかなければならないというのです。娘はこの申し出に飛びついて、すぐに頂くことになりました。中でも娘が喜んだのは、その中におなかの大きなグッピーがいたことでした。

教会から帰って来た昼下がり、娘はいつものように水槽のところに行って、魚が元気に泳ぎ回っているか確かめていました。驚いたことに、4匹の生まれたばかりの稚魚が泳いでいるではありませんか。おなかの大きかったグッピーが稚魚を出産し始めていたのです。すぐさま娘はその稚魚たちを別の容器に移し始めました。ほかの大きくて攻撃的な魚から守るためです。ところが困ったことに、一匹の稚魚が見当たりません。泣きながら必死に捜していた娘は、水槽の底に置いてあった小さな石の間にその稚魚が潜り込んでいるのを見つけました。網ですくおうとしましたが、傷つけてしまいそうで、どうしてもその稚魚を別の容器に入れることができませんでした。

ほかの稚魚はすべて捕まえて別の容器に移し替え、容器は稚魚でいっぱいになりましたが、娘は石の間にはまり込んだ例の稚魚を救い出すことに没頭していました。その稚魚が動いたらすぐに網ですくえるように、娘は水槽の前に座り込んだまま動かそうとしません。夕食も食べずに4時間も間水槽の中をじっと見詰めていました。

娘を見ていたわたしは、よく知られている感動的な話を思い出しました。99匹の羊を残して、いなくなった1匹の羊を捜しに行った良い羊飼いの話です(ルカ15:3-8; ヨハネ10:11-14 参照)。人はだれでも、迷ったり、悩んだり、霊的に病んだりする



娘が小さな魚の救出に傾けた執念を見て、人はだれ一人いなくなつてよいはずもなく、どうでもよい人などいないのだと思い知らされました。

ときにどのような気持ちになるかを知っています。しかし救い主は決してわたしたちをお見捨てになることはありません。主はいつも大きく腕を広げてわたしたちのそばにいてくださり、喜んでわたしたちを助けようと備えておられます。また、わたしたちを強め、祝福してくださるのです。

わたしたちはいつもそのことに気づくことはできないかもしれませんが、天の御父と救い主イエスキリストは、昼夜を問わずそばで優しくわたしたちを見守り、わたしたちの幸せと、わたしたちの歩む道に深い関心を寄せておられます。限りない愛にあふれた御二方は、天使たちにわたしたちを見守る責任をお与えになりました。また、わたしたちが十分な力と信仰を身に付けて、御二方の腕の中に安寧と平安を見いだすことができるように待ち望んでおられます。

その晩遅くなって、1匹のグッピーの稚魚に傾けた娘の執念は報われました。娘が辛抱強く待ち続けた結果、ついにあの小さなグッピーが小刻みに体を震わせながらゆっくりと石の間から泳ぎ出て来たのです。娘は慎重にそれを網ですくって別の容器に移してやりました。それは辛抱強く愛し続ける力の偉大さを証するすばらしい出来事でした。■





キリストの言葉

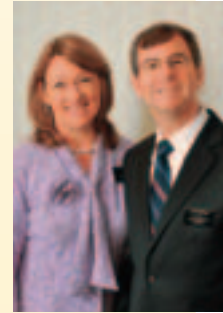
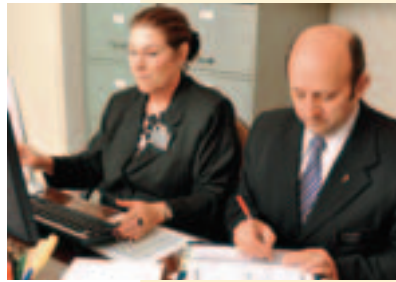
「宣教師たち」 ハワード・ポスト画

「あなたがたはわたしの御霊<sup>みたま</sup>の力をもって出て行き、二人ずつ組んでわたしの名によってわたしの福音を宣べ伝え、ラッパの音のように声を上げ、神の天使のようにわたしの言葉を宣べなければならない。

また、あなたがたは出て行って水でバプテスマを施し、『悔い改めなさい。悔い改めなさい。天の王国は近づいているからである』と言わなければならない。……

……さらにまた、この教会の長老と祭司と教師は、『聖書』と完全な福音が載っている『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない。

御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」(教義と聖約 42:6-7, 12, 14)



「わたしは、見返りや誉れやその他この世の報酬を求めない、ある人々を愛し高く評価するようになってきました。彼らは天の御父に栄光を帰することだけを求めています。その人々とは、熟年の宣教師たちです。——彼らはすばらしい、経験豊かな兄弟姉妹たちで、静かにまた熱心に、『この教会の基礎を据え……、暗黒から、また暗闇から、……教会をもたらす』のを助けています」 ケント・D・ワトソン 長老「熟年の宣教師たち」 18 ページ参照